

年間報告書 2011

同志社エコプロジェクト



Doshisha Eco Project  
2011

同志社大学省エネルギー推進委員会  
同志社エコプロジェクト (DEP)

〒610-0394

京田辺市多々羅都谷1-3ローム記念館2階 RM210

TEL :0774-65-7813

MAIL :dep.asumi@gmail.com

URL :http://eco-pro.doshisha.ac.jp/

# 同志社エコプロジェクト

## 理念

同志社大学において、学生・大学が共に環境問題を世界的視野で捉え、その問題解決に向けた活動を実践していく。そして、その成果を社会に対して還元していく。

## 方針

「エネルギー」「廃棄物」「自然環境」の3分野に主軸を置き、各分野の環境問題解決に向けて大学の特性を生かした多面的・継続的アプローチを行っていく。

## DEP組織図

同志社エコプロジェクト(DEP)は『同志社大学省エネルギー推進委員会』の下に環境活動を行う大学組織として、2007年に設立されました。『環境保全・実験実習支援センター』によるサポートを受け、学生メンバーは運営と活動に励んでいます。活動体系は、省エネ活動や広報活動などの全体活動と環境教育や映像制作などの特定のアプローチに特化した個別プロジェクトの2つを主軸として、多角的な活動を展開する形としています。

### 同志社大学

省エネルギー推進委員会  
環境保全・実験実習支援センター

### 同志社エコプロジェクト

#### 運営部

本プロジェクトを未来につなげるための運営活動および、本プロジェクトの現在の活動が円滑に進むための運営活動を行う部署

#### 活動部

本プロジェクトの理念を達する、学生ならではの環境活動を実践・提言していく部署。

#### 全体プロジェクト

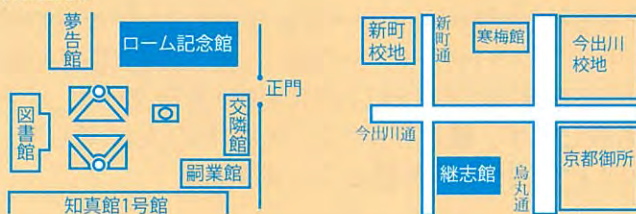
省エネ活動

#### 個別プロジェクト

3eee あすみチャンネル E-pho  
+E(環境教育) GC(国際交流)

## 活動拠点

京田辺校地 同志社ローム記念館2階 RM210  
今出川校地 継志館3階 第1教室



## あすみちゃん

あすみちゃんは、DEPのイメージキャラクターです。「あすみ」という名前には「明日美」「明日見」「Earth美」など、DEPの活動方針を大きく、また広義に表しています。



## はじめに

### 来期へ向かったの抱負や展望(大学の視点で)

東日本大震災によって、2011年は社会が大きく変化しました。日本全体で夏の電力消費を大きく抑えなければなりません。学内でも、図書館とのコラボレーション活動として、うちわを配布するなど夏の省エネルギー推進にDEPが活躍しました。学生・教職員の皆様方のご協力により、夏の電力消費を大きく引き下げることができました。来期も省エネルギー推進・環境保全のための斬新なアイデア・企画がDEPから数多く提案されることを期待します。さらに、活動を学内だけでなく、行政、企業、市民など社会との連携も視野に入れて、積極的な取組ができることを希望しています。大学の社会的責任の観点からも、大学と学生が社会との連携を進め、さらに効果的な環境問題解決に向けての活動を展開していきたいと思ひます。

横川 隆一

同志社大学 生命医科学部 医工学科 教授  
省エネルギー推進委員会 委員長

2011年度のDEPの活動は、組織設立から5年目になります。春に、16名の新メンバーを加え、DEPの新しい形を模索した1年でした。個別プロジェクトが新しく立ち上がったり、省エネサミットなどこれまでにない取り組みが行われたりしました。また、既存の活動においても、それぞれの活動領域の壁を越えて、新たなターゲットや手法など挑戦と工夫の跡がみられる1年でした。活動する学生数や企画の数も増えてきました。省エネ活動、夏合宿や同志社EVEなどの全体活動、そして5つの個別プロジェクトと、常に多くのプロジェクトが並行して活動をしていました。

2010年度以前の先輩たちから引き継いだこと、2011年度学んだことを受け止め、来季に向けて活動して行ってほしいです。社会の時流に乗った活動を心がけると同時に、これから社会に必要とされる1歩先を行く活動も展開してほしいと思っています。

村田 諒平

同志社エコプロジェクト 第5代学生リーダー  
同志社大学 理工学部 環境システム学科 4年次生

### - 目次 -

- 01 はじめに
- 02 DEP概要
- 05 省エネ報告
- 11 全体会
- 15 E-pho
- 17 +E
- 21 GC
- 24 環境特集1
- 25 3eee
- 30 あすみチャンネル
- 34 環境特集2
- 35 インタビュー
- 37 編集後記



2011年度は新たな個別プロジェクトと単年度限りのプロジェクトが新設され、映像制作、環境教育、政策提言、Web作成、国際交流といった幅広い分野の活動を行ってきました。DEPの根幹となる省エネ活動も今までのやり方に大きく工夫を加えるなど挑戦の多い1年になりました。またプロジェクト外の活動として、メンバーのスキルアップを図る「DEP塾」や、環境教育について考えてみる「+Eのじかん」といった自主的な取り組みもありました。大学の枠を越えたネットワークもたくさんでき、メンバー個人の環境活動が非常に充実していました。

	全体活動	個別プロジェクト活動
4	新入生歓迎会	
5		+Eのじかん(+E)
6	省エネ活動「夏期28度設定」開始 DEP塾開始	FM802ラジオ出演(有志) 古都ピカ!!(GC)
7	「うちわ作成」 (ラーネッド記念図書館と連動企画)	
8	夏合宿	あそんでまなぶじゅもんのことば セイブツタヨウセイ(+E)
9		中間報告会(あすみチャンネル)
10		
11	同志社EVEにてごみナビゲーション ルーム記念館にてDEPのCM上映	わくわく!森林トレジャーハンター (あすみチャンネル) あすみちゃんとゲームで考える ～セイブツタヨウセイってなんだ?～(+E) 京都市へ政策提言～最終成果報告会～(3eee)
12	省エネ活動「冬期20度設定」開始 省エネ活動「省エネサミット」	KBS京都 ラジオ出演 『森谷威夫のお世話になります!!』(+E) エココン2011への参加(3eee)
1		
2	冬合宿	
3		最終成果報告会(あすみチャンネル)



DEPの学生メンバーはいずれかの個別プロジェクトに所属し、それぞれの個性を活かした活動を行っています。2011年度は5つの個別プロジェクトがあり、それぞれが定めたMissionとVisionに従って環境活動を展開しています。

## +E

+Eは子どもを対象とした環境教育を行うプロジェクトです。私たちの行う環境教育では、どうすれば環境問題を子どもたちに理解してもらえるか、解決に繋がる行動を取ってもらえるかを考え、創意工夫しながら伝えます。2012年は+Eで作成した環境教育に関する教材を活用し、児童館などで環境教育を行う予定です。

## GC

GCは国際交流を通して、環境意識を広めていくプロジェクトです。GCのVisionは「環境知識・意識を持つ人がスタンダードとなり、地球人口＝環境人口である地球を目指す。」で、Missionは「DEPの活動と世界の環境活動を送受信することにより、学生を中心とした様々な人の環境意識・知識が向上する場を創出する。」です。現在はおもに留学生を対象にした企画を中心に活動しています。

## 3eee

環境政策提言プロジェクト3eeeとは、京都市内における様々な環境問題に対する解決策を学生で討論し、京都市に必要な環境政策を提言するプロジェクトです。2011年度は、環境に配慮したライフスタイルを確立するために、「エコ・コミュニティ活性化」に向けた3つの施策案を京都市役所に提言しました。

## あすみチャンネル

あすみチャンネルは「映像」という手段を用いて、環境問題にアプローチしているプロジェクトです。DEPの活動から見える「環境」をテーマにした映像コンテンツを創出・発信し、視聴者の環境に対する意識を高め、行動を促すことをMissionとしています。また、Visionは京田辺から全国へ環境意識の改革を行い、環境に配慮することが当たり前の社会を目指すために日々活動しています。

## E-pho

E-phoのテーマは「環境＋写真＋web」です。非言語でも強いメッセージを与えることができる写真と、世界中と繋がることのできるウェブページを用いてフォトページを作成し、そこから環境の啓発活動を行うことを目的としています。まずは、同志社生及び京田辺市に住む人をターゲットとし、言語を用いながら写真を中心としたサイトを開設します。最終的には、世界中の人に対して、非言語で環境啓発を行い、環境に対する意識の向上を図りたいと思っています。

# 同志社エコプロジェクト 省エネルギー活動2011 活動報告

## 省エネ活動とは

DEPでは、全体活動として、学生と大学の仲介役となる省エネ活動に取り組みたいです。そもそも、「同志社大学省エネルギー推進委員会」では、省エネ法(※)の遵守や社会貢献のために大学の省エネルギー化やエコキャンパス化に取り組みようとしていました。そこで、学生と大学の仲立ちとなる存在として設立されたのがDEPです。そのため、DEPでは全員参加が必須の全体活動として、2008年度より、エアコンの設定温度を夏期28度、冬期20度に一律で設定する取り組みを行っています。また、活動を円滑に進めるために、立て看板の設置やアナウンスなどによる周知活動や取り組みに関するアンケート集計、さらに、学生へのフォロー活動も推進しています。以下、2011年度の省エネ活動とその成果を報告します。

(※省エネルギーの使用の合理化に関する法律(通称「省エネ法」)  
総則(この法律は、内外におけるエネルギーをめぐる経済的社会的環境に応じた燃料資源の有効な利用の確保に資するため、工場等、輸送、建築物及び機械器具についてのエネルギーの使用の合理化を総合的に進めるために必要な措置を講ずることとし、もつて国民経済の健全な発展に寄与することを目的とする。)

この法律に基づき、同志社大学は、2003年から京田辺キャンパスが第一種エネルギー管理指定工場に指定され、既存建物についてエネルギーの使用効率を年1%削減することが、目標値として求められるようになりました。

## 省エネ活動報告

### 2011年度活動紹介

2011年度の省エネ活動では、大学の省エネ化を推進するため、2010年度に引き続きエアコンの設定温度を夏期28度、冬期20度に一律で設定する取り組みを実施しました。特に2011年度は、2010年度、猛暑のため、CO<sub>2</sub>排出量が前年度比で増加してしまつたという事実を重く受け止め、より省エネ化を推進するために5つの活動に取り組みました。

## 1 周知活動

周知活動は、冷暖房が一律設定であること学生に知ってもらい、取り組みに対する理解と協力を得ることを目的とする活動です。2011年度は、昨年度に引き続き、活動を周知するポスターを立て看板に掲示して設置することや、正門にてメンバー全員で省エネ活動への協力を呼びかけました。さらに、新たに知真館1号館に設置されている液晶パネルでも省エネについて掲載することで、精力的に冷暖房の一律設定を周知しました。



↑夏期省エネアナウンスの様子↑



↑冬期省エネアナウンスの様子↑

## 2 教室の温度・湿度実測調査と学生に対するアンケート調査

DEPのアンケート調査は冷暖房の温度一律設定による現状と学生の反応を把握し、省エネ活動の方針を見直すことを目的とした活動です。2011年度も2010年度に引き続き、京田辺と今出川の両校地にて、授業時間内の温度・湿度を15分ごとに測定する実測調査と、授業時間の一部をいたいて、学生を対象にしたアンケート調査を実施しました。2011年度は、例年に比べて一律設定に関する質問項目を充実させ、新たに省エネ設備に関する質問項目も加えることで、これまで以上に今後の省エネ活動に具体的に活かせるアンケート調査を目指しました。以下、夏期・冬期のそれぞれのアンケート調査と実測調査の結果を掲載します。

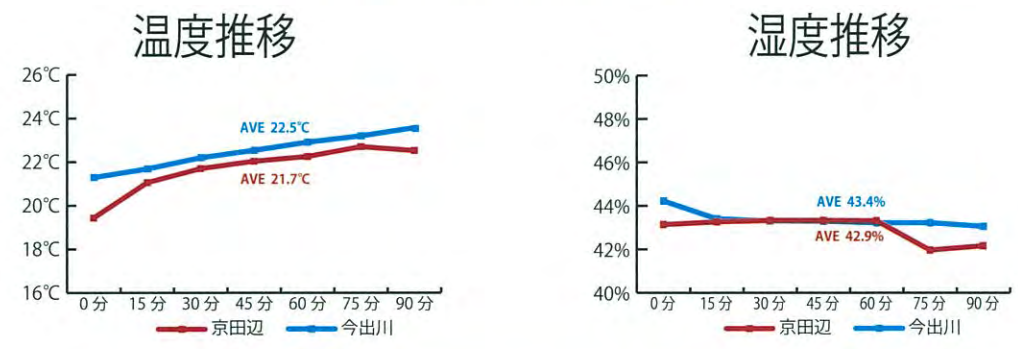


## 温度湿度測定結果

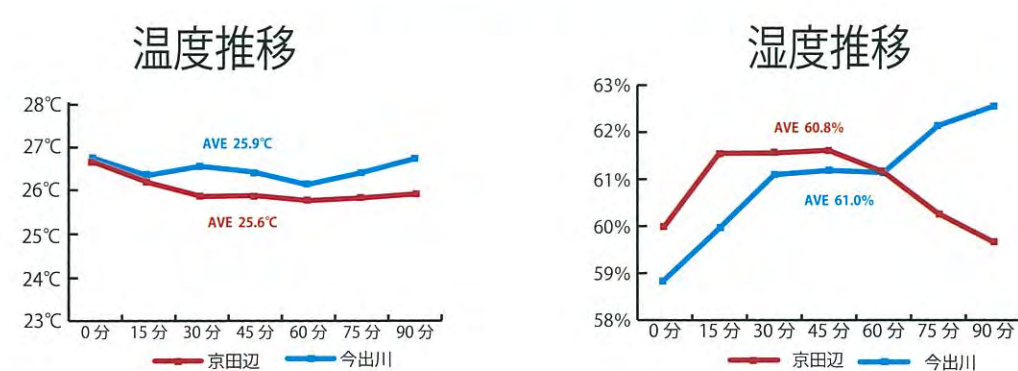
1 講義を15分ごとに行い、対象教室の気温と湿度の調査を行いました。前年度の反省から、2011年度度は教室内の1か所を計測するのではなく、2か所で計測を行いました。

冬期のグラフに注目してみると、全体を通して見てみると、京田辺と今出川の両校地とも20度を上回る結果となり、両校地とも気温、湿度差はあまり見られませんでした。次に時間別に見てみると、両校地とも気温は時間が経つにつれて上昇していることがわかり、湿度は逆に下がっていることがわかります。このことから授業の開始時から終了時まで常に暖房器具を動かさなければならぬのか考える必要があることがわかります。また異なる教室で同程度の気温が計測されているにもかかわらず、体感温度の意見が異なることもわかりました。これは教室の大きさや人口密度の違いによるものです。そして計測する場所を2か所にするにより、教室内の温度が一律ではないことが明確になりました。どの席が寒くて、どの席が暖かいのか、その見極めが簡単にできれば体感温度の調節は簡単にできるかもしれません。また、一律に温度設定をすると、明らかに学習環境が損なわれる教室があります。一律設定にしなければ本当にCO<sub>2</sub>の年間の削減目標を達成できないのか、再度検討する必要があります。今後は学生の満足度と省エネ活動の両立の為に、エアコンの設定温度以外にも新たな仕組みづくりが必要

夏期温度・湿度推移グラフ



冬期温度・湿度推移グラフ



夏 省エネアンケート調査結果

調査結果が下のグラフです。  
Q1は認知度を確かめる設問です。両校地を合わせると9割を超える人から28度設定の認知度があると判断できます。校地別では、明らかに今出川の方が認知度が低いため、周知活動の強化をしなければなりません。

Q2・3は実際の体感温度を確かめる設問です。全体として「寒い」と回答する学生はほとんどいませんでした。また開始時と終了時の体感温度について見ると、開始時は暑く感じていた学生も、終盤時には快適に感じているようになり、冷気が全体に回ることが理由です。

Q4では28度設定に関する意見を集めました。全体的に見て「もう少し温度を上げてほしい」以外の項目は、ほぼ同じ割合であることがわかります。これらの項目は学生の満足度を向上させるためにも、今後の省エネ活動に活かしていきたいかなければなりません。

Q5は学生からの省エネ活動の評価を確かめる設問です。総じて続けるべきだと答えた学生が全体の83%を占めることがわかりました。このことから28度設定は学生に評価されている活動であることがわかります。

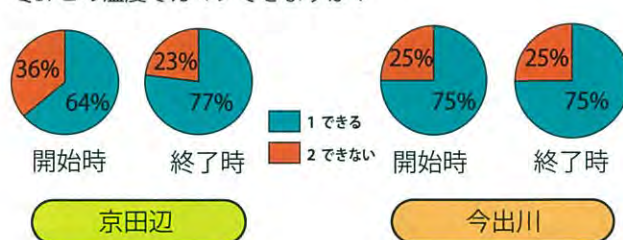
Q6・7は省エネの設備についての設問です。最新の省エネ設備が導入されたことを知る学生は少ないですが、過半数の学生が新たな省エネ設備の導入に賛成しています。

教室		教室回収数	校地回収数	全体回収数
京田辺	TC1-118	318枚	3006枚	3616枚
	TC2-101	1763枚		
	MK302	925枚		
今出川	M21	352枚	610枚	
	R302	258枚		

Q1. エアコン「28℃設定」の取り組みのご存知でしたか？



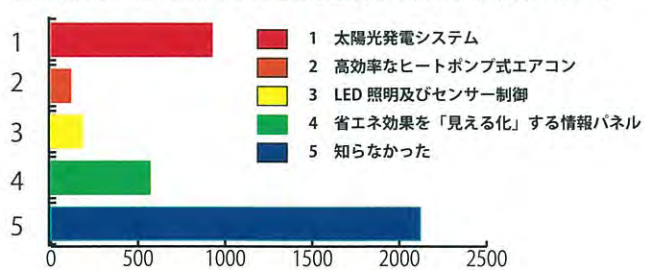
Q3. この温度でガマンできますか？



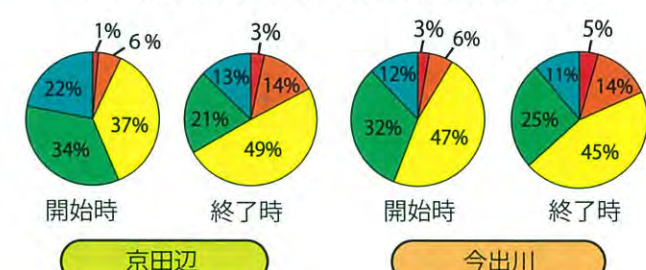
Q5. 本年度以降もエアコンの温度を引き続き「28℃設定」をすることについてどう思いますか？



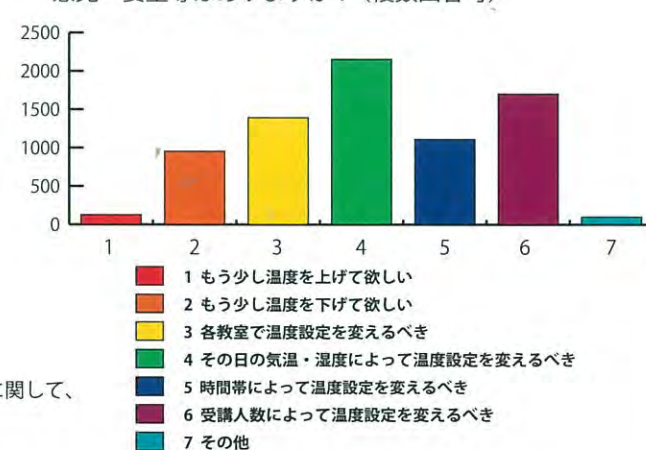
Q6. 京田辺校地の知真1号館で導入された以下の最新の省エネ設備に関して、導入されたことを知っていたものを選んでください。(複数回答可)



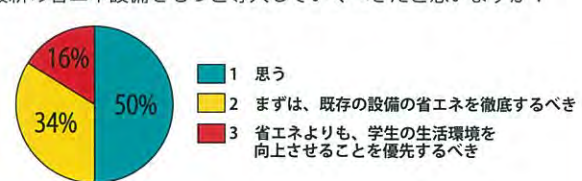
Q2. 「28℃設定」のもと、体感温度はどう感じていますか？



Q4. エアコン「28℃設定」に関して、意見・要望等がありますか？(複数回答可)



Q7. 今後同志社大学において、今回導入されたような最新の省エネ設備をもっと導入していくべきだと思いますか？



冬

省エネアンケート調査結果

夏のアンケートのQ4では温度設定の改善点が明確化できないこと、Q6・7では、最新の設備の認知度が確認できたことにより、冬のアンケートではこれら3つの設問を少し変更しました。

ではQ1から見えていきます。認知度は夏と比べると大変低いことがわかります。特に今出川での認知度の低さは目立っており、今後の周知活動を強化しなければなりません。

Q2・3の体感温度の質問では夏に比べると適切であると答える学生が多く、20度設定による省エネ活動は学生の満足度の面からみても適切であることがわかります。またQ5の20度設定の継続に関する設問からもそのことがわかります。

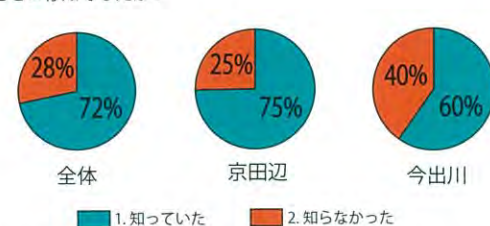
Q4の設問では学生の意見をまとめました。「受講人数によって温度設定を変えるべき」など、温度設定に関して臨機応変な対応を学生が求めていることがわかります。

Q6の設問では省エネの設備に関する調査を行いました。最新の省エネ設備の導入に多くの学生が賛成していることがわかります。4分の1の学生が「既存の設備の省エネを徹底すべき」と回答しています。最新の設備の導入と既存の設備による省エネの見直しを並行して行うことが必要になります。

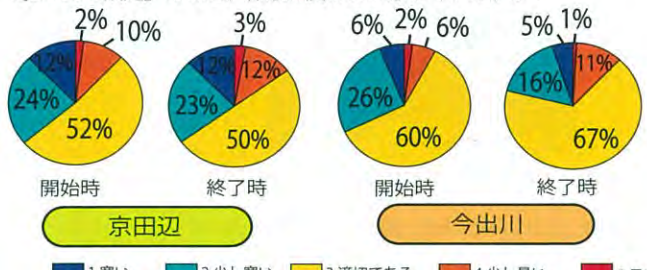
Q7の設問では実際に省エネ活動の普及の調査を行いました。公共交通機関の利用や徒歩での移動など、取り組みやすい活動が普及していることがわかります。また大学で実際に行われているエアコンの20度、28度設定がよく普及していることは大変喜ばしい結果です。

教室		教室回収数	校地回収数	全体回収数
京田辺	TC1-118	299枚	1674枚	2062枚
	TC2-101	787枚		
	MK302	588枚		
今出川	S地3	219枚	388枚	
	R302	169枚		

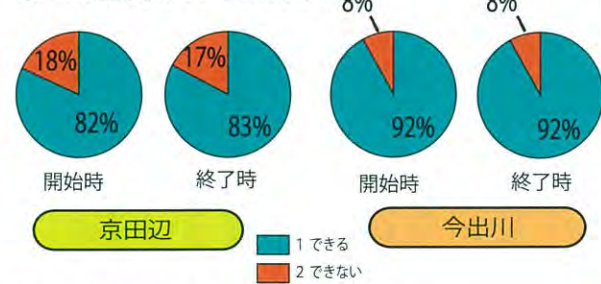
Q1. エアコン「20℃設定」の取り組みのご存知でしたか？



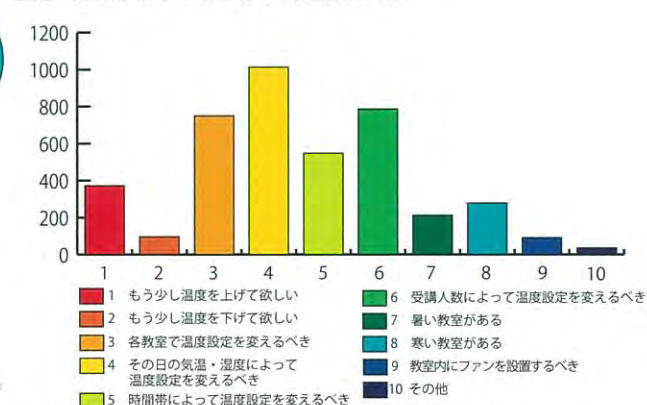
Q2. 「20℃設定」のもと、体感温度はどう感じていますか？



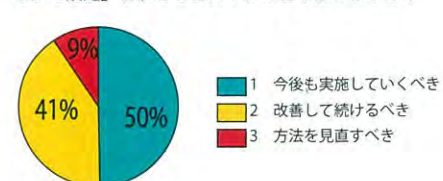
Q3. この温度でガマンできますか？



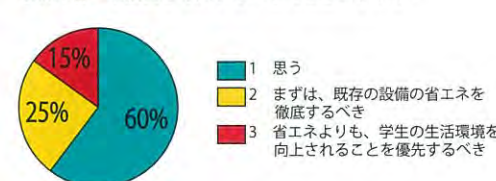
Q4. エアコン「20℃設定」に関して、意見・要望等がありますか？(複数回答可)



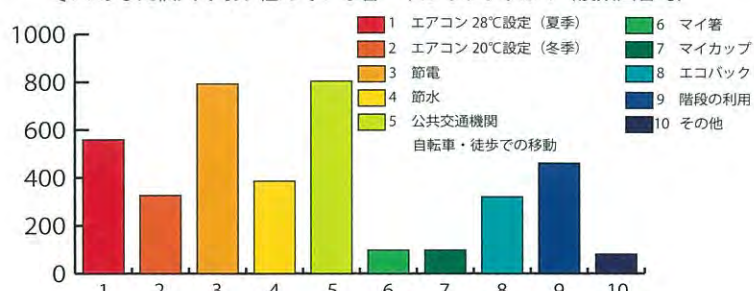
Q5. 本年度以降もエアコンの温度を引き続き「20℃設定」をすることについてどう思いますか？



Q6. 知真1号館以外のほかの施設でも、最新の省エネ設備を導入するべきだと思いますか？



Q7. あなた個人で取り組んでいる省エネはありますか？(複数回答可)



### 3 うちわ企画

2011年度は東日本大震災の影響を受け、電力需要のピークにあたる夏に日本全体で節電に取り組まなければなりません。そこで夏の猛暑を少しでも和らげる新たな取り組みとして、ラーネット記念図書館と協働して学生に対して「うちわ企画」を実施しました。この企画は、「この夏に取り組む省エネ」をうちわに書き込めば、そのうちわを無料でもらえるというものです。猛暑を和らげるだけではなく、このうちわにメッセージを書いた人、このうちわを見た人の両方に省エネ意識を高めてもらうことを目的として実施しました。うちわは合計で約1800枚配布することができ、その結果多くの学生に「この夏に取り組む省エネ」を実践していただきました。



### 4 省エネサミット

これまで学生に対するアンケート調査は、大学への報告書と提案書の提出という形でしか活かされてきませんでした。そこで2011年度は新たに、学生が大学に直接省エネの方策を提案する場として「省エネサミット」を開催しました。全学生の10パーセント以上の約3500枚ものアンケートをもとに、主に「冷暖房の一律設定」と「省エネ設備の導入」に関して省エネの方策を作成し、大学に提言しました。結果的に裏付けが少ないうちわから、すぐに反映されませんでした。今後検討していただけることになりました。本企画では学生・大学の職員の方々など、本当に多くの方にお世話になりました。「学生の意見を大学に直接提言する場」として、今後も発展させていきたいと考えています。



### 5 大学への報告書の提出と来年度以降の活動提案

私たちの活動は、アンケート調査や温度・湿度調査の報告書を基に、今後の省エネ推進活動報告書を大学に提出し、今後の省エネ活動をより良く改善するための活動です。2011年度の夏期省エネ活動報告書では、アンケート調査から得ることができた一定の評価に基づき、2011年度の活動を踏襲する方針を提案しました。今後も、大学のエコキャンパス化に向けて、より良い省エネ活動を大学に対して提案していきます。

#### 今後の活動内容

1 つ目の「効果の見える化」とは、同志社大学やDEPが行っている活動の効果も、学生にしっかりと伝えることです。学生と共同して省エネ活動をするためにも、効果を公表し、それについて学生に評価してもらいます。

2 つ目の「アクション」とは、実際に体を動かし環境活動を精力的に行うことです。ごみ拾いなどの活動を増やすことで、学生の意識を向上させ

#### 省エネ活動FAQ

校内の省エネにつなげていきます。以上2つのキーワードを大切に、来年度の省エネ活動に力を入れていきます。

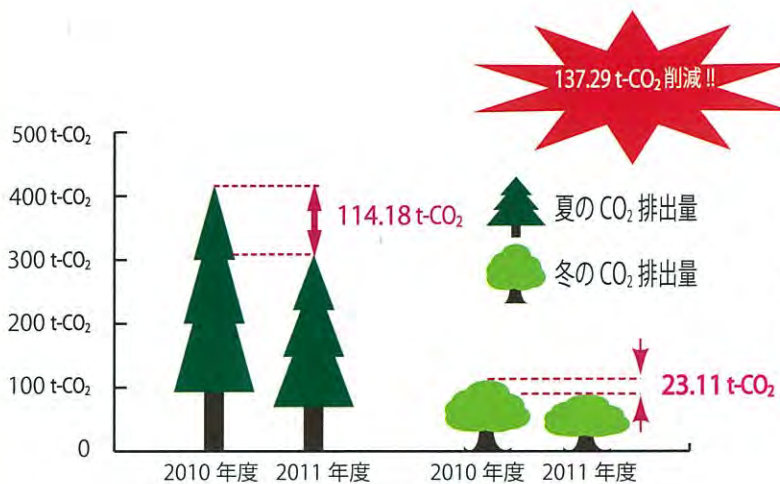
Q 調査結果はどこで公表されますか？  
例年はDEPの年間報告書でのみの公表でしたが、2011年度からは同志社大学のホームページ上にリンクが貼られるので、そこから見ることもできます。

Q 教室ごとに温度設定をしてほしい  
校舎によって設定を教室単位で行える所とそうでない所があるため、非常に難しいところがあるといえます。また、個別に調整できたとしても教室の状況は常に変化するため、全員が満足する温度設定をすることは容易ではありません。しかし、学生の満足度の向上のためにも解決のために取り組んでいきます。

Q 省エネ設備はどこにあるのですか？  
2011年度に導入された省エネ設備は、知真館1号館に導入されています。一番見えるところにあるのは1階の通路にある「省エネパネル」です。このパネルには太陽光パネルの発電状況などの省エネ情報が流れています。また、太陽光パネルやヒートポンプ式エアコンは屋上に設置されています。

### 2011年度削減効果

2011年度同志社大学は、1377tものCO<sub>2</sub>排出量削減を達成しました。夏期冬期ともに、知真1・2号館のCO<sub>2</sub>排出量が約半分に減少しました。これは、2010年度の2月から知真1号館に最新の高効率空調設備が導入されたことが大きな理由として考えられます。また、表を見てわかるように、知真館1・2号館だけではなく、ほとんどの校舎で排出量が減少しています。この結果から、設備の導入のみに関わらず学内の



	夏期(6-9月末)		冬期(11月15日-12月末)	
	2010年度(t-CO <sub>2</sub> )	2011年度(t-CO <sub>2</sub> )	2010年度(t-CO <sub>2</sub> )	2011年度(t-CO <sub>2</sub> )
知真館1・2号館	111.62	62.03	43.77	22.18
知真館3号館				
図書館・食堂含む	204.24	180.88	38.19	44.03
夢告館系統	69.34	44.25	12.23	9.4
情報メディア	23.74	12.34	8.6	5.79
恵道館	19.13	14.39	5.38	3.66
合計	428.07	313.89	108.17	85.06

省エネに対する姿勢が向上しているといえます。

2012年度からこの良い流れが途切れる事のないよう、この結果を学生に向け公表することで省エネ効果を認識させ、学内の省エネの取り組みに対し理解を得ることが必要となってくるでしょう。その上で大学と学生が一体となり、さらなる成果に向け省エネ活動をますます推進していかなくてはなりません。

#### 大学職員さんからのコメント

1. 今度DEPの省エネ活動に関して、施設課からDEPに期待すること  
昨年3月の震災以降、さらなる省エネが呼びかけられております。

同志社大学京田辺校地においても照明の間引き、消灯、空調の運転制御等によりCO<sub>2</sub>前年度比8.1%減と大幅にCO<sub>2</sub>を削減することができました。ここ数年のDEPの省エネ活動があったからこそ学生からの大きな反対なく大胆な省エネ施策を実行できた結果ともいえます。そのような意味においても施設課がDEPにまず期待するのは、学生・教職員のさらなる省エネ意識の啓蒙です。空調設備の改修といったハード面での省エネは大変な費用がかかるため簡単には進めることができません。他方、設定温度のきめ細かい調整といったソフト面での省エネは施設利用者の意識で大きく前進することが出来ます。これからも同志社大学にかかわる全ての人々の省エネ意識向上のため活動いただけたらと思います。

#### 2. 施設課がDEPに協力できること

エネルギーの使用状況や大学施設設備についての情報は環境保全・実験実習支援センターを通じて提供できると思います。より省エネ意識の高いキャンパスづくりをめざしてこれからも様々な活動を展開していくことを期待しております。

### 2011年度 省エネ活動総括

2011年度、同志社大学の空調に関するCO<sub>2</sub>排出量は、前年度と比べて1377tの削減を達成しました。2010年度前年比で1%増加した実状からすると、喜ばしいことではないでしょうか。2011年度のDEPの省エネ活動は、例年のアナウンス活動やアンケート調査に加え、ラーネット記念図書館との共同企画や省エネサミットなど、学生にもっと学内の省エネの取り組みに対して、さらなる興味を持ってもらえるよう企画を重ねてきました。そのような新しい試みを実施した結果、DEPの省エネ活動について多くの問題点と新たな可能性が見えてきました。

私たちDEPは今回の削減結果で満足するのではなく、4年間のアンケート調査で収集した過去のアンケート調査の結果と、教職員の方々や学生みなさんの協力を頂き、さらなる排出量削減を目指して、これからも大学の省エネに貢献していきます。



「協力ありがとうございます」

# 2011年度全体会



## 全体会概要と総括

DEPでは、月に1度メンバー全員が集まる全体会を開催しています。全体会の目的は、「環境に関する知識面の強化」と「プロジェクトを運営する上でのスキルアップ」です。毎月異なるメンバーが運営を担当し、テーマや形式を考えるとところから、当日の進行までを行います。2011年は、個別プロジェクトの視点からテーマ設定を行った月や、省エネに関する企画の予行を行った月もあり、全体会という場を上手く活用して、日頃の活動や企画の質の向上につなげることができました。

## 全体会年間スケジュール

月	テーマ・内容	担当
4月	新歓を兼ねたプロジェクト紹介&交流	新歓チーム
5月	省エネに関するディスカッション	省エネチーム
6月	環境教育	+E&有志メンバー
7月	夏合宿予行	夏合宿運営チーム
8月	夏合宿	夏合宿運営チーム
9月		
10月	Super Photorally Z II	E-phoメンバー
11月	省エネサミット予行	省エネチーム
12月	EVE祭のごみナビ&廃油回収	有志メンバー
1月	リーダー選挙	選挙管理委員会
2月	冬合宿	OP会&冬合宿運営チーム
3月	卒業生最後の全体会	卒業生

## 6月期全体会

### 活動内容

6月期全体会は、環境教育を軸に、環境問題に対するさまざまなアプローチ方法をどのように尊重するか、お互いに力を強めあえるDEPをどのように創っていくかを考えることが目的でした。そして、「自分のルーツを探れ!」「環境教育の世界へ」「環境教育と〇〇でつくる世界」の3部構成で行いました。「自分のルーツを探れ!」では、つくる所(京阪東ローズタウン共育ステーション)の森川

## 2011年度全体会

俊介様をお招きし、子どもの頃やDEPに入った頃を振り返るワークショップを行いました。このワークショップから、子どもの頃の経験や子どもと接することの重要性を感じることができました。

「環境教育の世界へ」では、環境教育の目的や歴史などについてのレクチャーと環境教育の一つである「わたしはだれでしょう?」というネイチャーゲームを行いました。レクチャーを通して、環境教育の必要性やそのおもしろさに気づいたり、ネイチャーゲームで実際に体を動かしながら実践することによって、イメージしかなかった環境教育を具体的に知ったりすることができました。

「環境教育と〇〇でつくる世界」では、個別プロジェクトごとに自分のプロジェクトの特徴や強みを分析し、環境教育とのコラボ企画を考えました。短い時間でしたが、どのプロジェクトもたくさんの強みが出てきて、ユニークな企画ができました。また、それぞれのプロジェクトが自分たちの活動の魅力を改めて考えることで、新たな可能性が生まれました。

6月期の全体会では、今まで知らなかった環境教育の奥深さを感じるとともに、自分のルーツや人とのつながりを考えることができ、今後の活動につながる貴重な1日になりました。

## 10月期全体会

### 活動内容

10月の全体会は、E-phoが企画しました。DEP内でもE-phoのことをまだよく知らないメンバーが多いと感じ、E-phoが生まれるきっかけとなったSuper Photorally Z以下SPZとすることを通じて、もっとE-phoの活動意義を知ってもらうことを目的としました。また、DEPメンバーがこれから広報などで写真を撮る機会が多くなるため、写真の撮影技術や写真の管理方法を身につけてもらうことも目的としました。

当日はまず、E-phoが結成された経緯や理

念、活動内容とこれからの展望を共有しました。また、DEP内での写真の管理方法の周知を行いました。次に、今回の全体会のメインとなるSPZ IIを行いました。4つのチームが京田辺校地内を歩き回り、E-phoが作成した環境に関する問題に対して写真で答えを撮影してきました。私たちの予想以上に、どのチームも難しい問題にも正解しており、メンバーの環境知識の多さがうかがえられました。さらにチームごとの課題として「秋を感じられるもの」「メンバーの新たな一面」「同社社外に発信したもの」「同社社外で新たに発見した物事」を提示し、写真に収めてきてもらいました。SPZ II終了後、チームごとに課題写真のプレゼンを行いました。課題に対する様々な捉え方があり、各チームの個性が出たプレゼンとなりました。次に、他大学から講師の方をお招きし、「写真の撮り方講座」を開いていただきました。今回は主にデジタルカメラの基本的な仕様や、場面ごとの機能の違い分けを学びました。室内での説明だけでなく、メンバー全員で外に出て撮影の実践を行い、アドバイスをいただきました。



大学の枠を越えた交流を楽しむことができました。しかし、SPZ IIでは、E-phoの活動意義がよく見えないという意見も頂きました。この点は反省し、これからのE-phoの活動に生かしていかなければならない点です。

### 参加者の感想

SPZ IIでは、いかに「自然の豊かさ」を写真で表現するかを考えることで、「自然」を普段とは異なる視点から捉える事が出来ました。大学敷地内には多くの木々や草花が植えられており、自然に恵まれた環境なのだと思えて気がかされる良い機会となりました。

## 同社社EVE

### 活動内容

11月26から28日に行われた同社社EVEにおいて、DEPは例年のごみナビゲーションに加えて、新たに廃油回収を行いました。交代でシフトを組み、10時から20時までEVE実行委員会の方々と協力して作業しました。ごみナビゲーションでは、今出川キャンパス内に設置された5か所のごみ箱の前で来場者に対してごみ分別の呼びかけや、リサイクルをするために割りばしの回収などを行いました。年々来場者のマナーはよくなっており、きちんと可燃物、ペットボトル、空きビンなどを分別して捨てていただけることが多くなり、割りばしの回収も10kg以上になりました。回収した割りばしは王子製紙株式会社様に引き渡し、紙資源としてリサイクルされます。模擬店から出される使用済みごみから油の回収は初めての試みということもあり出店団体に対してルールの徹底を図ることが困難でしたが、1000以上も回収することができました。回収した廃油は株式会社レボインターナショナル様に引き渡し、環境負荷の少ないバイオディーゼル燃料として使用されることになっています。

### 参加者の感想

ごみを捨てに来た来場者の方々とコミュニケーションや、スタッフ同士の「お疲れ様」のかけ合いが、やっつけてよかったなと思える瞬間です。ごみナビゲーションは今回で3回目となりますが、作業の効率化や成果が上がってきているのを実感できるので、来年以降も引き続き行なっていきたいと思っています。



# 夏合宿



## 概要

DEPでは、夏の長期休暇を利用して毎年恒例1泊2日の夏合宿を行います。今年も森林をテーマとして環境ステージの発表をチーム毎に行い、メンバーが抱く「想い」をそれぞれ発表しました。

開催日時  
8月28日(日)から29日(月)

場所  
同志社びわこリトリートセンター

- 目的
- I DEPメンバー間交流
  - II DEPメンバーのスキルアップ
  - ・PJマネジメント力
  - ・チームマネジメント力
  - ・新メンバーの基礎力
  - ・プレゼンテーション能力
- III 環境に関する知識の向上

## 夏合宿流れ

1日目	9:15 同志社大学京田辺校地出発
	11:15 同志社びわこリトリートセンター到着
	11:30 昼食
	12:45 講演会
	15:30 レクリエーション
	17:30 夕食
	19:30 前日リハーサル
	22:00 就寝
2日目	6:45 ラジオ体操
	7:30 朝食
	9:10 ステージ本番
	12:10 昼食
	13:00 ステージ本番
	14:00 振り返り
	16:30 片付け&出所準備
	17:00 リトリート出発
	19:00 同志社大学京田辺校地着

## 夏合宿内容

### 講演会

森林に携わっている方々からその活動内容を聴かせていただき、今後の活動に活かしていくことを目的とした講演会を行いました。

### 講師紹介

有山泰代様  
自然保護協会の自然観察指導員の資格を持ち、自然保護の活動をなさっています。里山の保全活動について、講演をしていただきました。

### 林エリカ様

株式会社Hibanaにインターンで通う大学生です。会社で扱っている木製ベレットストーブを中心に、バイオマス燃料について公開をしていただきました。

### レクリエーション

1泊2日の合宿だからこそののが、環境を抜きにしたレクリエーションです。頭と体を使ったゲームで普段とは違ったメンバーの一面が見られました。メンバー同士が仲良くなることもプロジェクト活動においては重要なことです。笑顔が絶えない素敵なひとときでした。

### 前日リハーサル

発表する場所の確認や台詞を最終確認するための時間も設けました。この時間を利用して環境保全・実験実習支援センターの方々から客観的なコメントをもらうこともできました。また、ステージ本番で委縮しないために「緊張のほぐし方講座」を行いました。

### ステージ本番

森林をテーマとした環境ステージの上演を行いました。1ヶ月の努力の甲斐があり、7月全体会での短編ステージと比べると完成度が格段に上がっていました。ここでは全5チームのステージを単に紹介します。

※◆チーム名。

## ◆劇団ゴリラ

とある市の市長選を舞台とし、3人の候補者が、自治体の保有する森林のどういった魅力を活かしていくのかを熱弁するといった内容でした。生物多様性、防災機能、癒しの力といった森林の魅力を語る候補者の演説に力が入っており、想いが伝わりやすく高評価でした。斬新だった構成も評価されていました。



## ◆マリオパーティー

奄美大島を舞台とした。世界遺産登録の是非についてのステージでした。世界遺産登録と聞くと思えばいいことのように思えますが、登録されると観光客が増え、ごみ問題に繋がるとも指摘されました。

## ◆チームDAP

実際に宇治市の天ヶ瀬ダムにある森林を訪れたメンバーが、その時の写真と共に森林の魅力をプレゼン



## ◆チームかぶとむし

世界の森林破壊を引き起こしているのは他でもない日本だという衝撃的なメッセージからプレゼンテーションが始まりました。日本のスーパーマーケットに多く並んでいる商品を作るために森林が破壊されていることから、環境にやさしい商品を買ってほしいという想いが伝わってきました。



## ◆ヨッシーストーリー

DEPのミーティングを舞台として、現在の森林の抱える問題点を浮き彫りにし、自分たちがどのような活動をしてその問題にアプローチしていくかを考えました。日本の森林管理体制に一石を投じるべく政策提言をするという決定がなされました。会議形式だったため論理的で分かりやすいものになりました。



## 振り返り

ステージ発表の後は、夏合宿を振り返りました。夏合宿で得たものをこれからの活動に活かすための時間でした。まずは「夏合宿の感想」と「夏合宿で得たもの」の2項目について発表し合いました。

### 【夏合宿の感想】

- ・先輩の発表の上手さに驚いた。
- ・普段関わらないDEPメンバーと話すことができ楽しかった
- 【夏合宿で得たもの】
- ・先輩と一緒にひとつのものを作り上げることでプロジェクト活動の考え方を学んだ
- ・ステージの発表を通じて伝えることの難しさに気づけた

夏合宿を通して、発表の仕方や環境知識などの面で、先輩は先輩から学ぶ場面が多かったことがわかりました。また、チームでの活動やレクリエーションで、メンバーの新たな一面にも気づけました。

そして「半年後の自分」とするために「今すべきこと」を書きました。それぞれの決意を胸に、夏合宿後の活動につなげていこうというものです。



## 夏合宿を終えて

夏合宿では「想いを伝える」ということに挑戦しました。「想いを伝える」ということは環境活動をする上でとても重要だと感じたメンバーの発表によるものです。企画書を書いてメンバーに想いを伝え、協力を求めることや、企画を行う上で留学生や子どもたち、学生に環境への想いをより上手く伝えることができれば、より多くの方々に巻き込んだ活動ができ、DEPの活動がより有意義なものになると思います。

そして、当初掲げた目的の「DEPメンバーのスキルアップ」については、新メンバーは先輩の背中を見ながら行動することで、既存のメンバーはチームを率いることで達成されたと思います。また、「DEPメンバー間の交流」が達成されたことは笑顔で活動するメンバーを見ればすぐにわかりました。

夏合宿はDEPに入ってきた新メンバーが、DEPで活動することへの可能性を感じられる場であってほしいと思っています。DEPの活動を今後引き継いでいくためにも、これからの夏合宿をより有意義なものできればと思います。



E-phoは非言語である写真を通して、環境に対する意識を向上させることができるサイトを作成し、運営することが主な活動です。また、同時にDEPのサイトも運営する予定です。

E-phoのサイトでは非言語である写真を通じて、DEPのサイトでは文章を通じて、環境について伝えていきます。

## はじまりの一年

『E-phoをプロジェクトとして根付かせる。そして、サイトを開設する。』これが2011年度の課題でした。

なぜなら2010年度末に誕生したE-phoの初期メンバーは今年度で卒業し、立ち上げた時の想いを直接伝えることができるのは今年までであり、また、その想いを形で伝えることができる一番の方法が、サイトを完成させることだと考えたからです。

プロジェクトとして根付かせるには、初期メンバーの想いを伝えるだけでなく、メンバー自身がプロジェクトに所属しているという責任感を持ち、楽しむことが大事だと考えました。一方、サイトを完成させるには、作成するにあたっての知識や技術の向上が大事だと考えました。ただ、メンバー集めから始めた私たちに、サイトをすぐに作成できるほどのプログ

ラミング知識もなければ、カメラの知識もほとんどありませんでした。しかし、わからないことがあれば上回生が教え、時間を設けて皆で一緒に勉強することで、プロジェクトに対する責任感を持つようになりました。

## サイトをつくるにあたって

2010年度末から活動を開始したE-phoは、サイトのデザインを考案する「デザイン班」、デザイン班から受け取ったデザイン案を基にサイトを作成する「クリエイター班」、閲覧者を増やすために企画を考案し、実施する「コンテンツ班」の3つの班に分かれて活動していました。

以下に、3つの班の活動について詳しく紹介します。

「デザイン班」は、写真が主であるE-phoのサイトを、見やすく、また見た人に興味を持ってもらえるようなデザインにすることを主な活動としています。まず、サイトの構成をわかりやすくするために、サイト全体を表示した樹形図を作りました。また、どのようなページが必要かを考え、全ページのデザインを完成させました。さらに、デザイン班は絵コンテで決めたデザインを起こすためにIllustratorの勉強もしています。サイトに動きを出すためにPhotosを使用するので、Photos勉強会を開き、技術を伸ばしています。



「クリエイター班」は現在、サイト作りのために必要な知識や技術の勉強と、新入生のための教材作りを行っています。クリエイター班の勉強会では、サイト制作専用のソフトを用いて、サイト作りの練習や、HTML言語の読み方、ブログラミングなどを学んでいます。夏休みには、E-phoのトップページを予定していたデザインを基に、1人でトップページを作成するという課題を行い、1人1人の技術の向上を図りました。現在では、クリエイター班全員が簡単なホームページを一人で作れるようになり、サイトのソースもある程度読めるようになりました。

「コンテンツ班」では、E-phoの周知や、見た人の環境意識を高めるといった目的を達成する企画とはどういうものか、班のメンバーや環境保全・実験実習支援

# E-pho

## はじまりの一年

センター方と話し合いを重ねてきました。現在考えられているのは「環境MAP」という企画です。これは、京田辺市に落ちているごみや自然を写真で記録し、その写真を地図上に張り、サイトで紹介するというものです。また、ただ写真を撮りに行くだけでなく、実際にメンバー自身がごみ拾いも行います。この「環境MAP」を通して、同志社大学生や京田辺市民にポイ捨てをやめてもらい、さらには自主的にごみを拾ってもらうように促すことが目的です。最初は同志社大学周辺から始め、徐々に範囲を広げていくつもりです。

## サイト詳細

非言語である写真を主として、サイトを見た人に環境に対する意識を向上させることができるサイトを作成します。写真という非言語のツールを使い、言葉の通じない世界に向けて発信をしたいと考えていますが、第一歩として、身近な人たちを対象に言葉も交えながら発信していき、次第に対象の範囲を広げていく予定です。メッセージ性の強い写真を随時掲載していきたいと考えています。

サイト閲覧者が環境に興味を持ち、実



際に何か行動に移してもらえるように、まずは比較的身近にあり行動に移しやすい「ごみ」をテーマとしたサイトを作成することにしました。デザイン班で決定した各ページの内容は、「Top」「Intro」「Photos」「Contents」「Q&A」の5つに決まりました。



「Top」とは、文字通りサイトのトップページです。トップページでは、コンテンツの企画の広告や更新情報、写真一覧、リンクが載せられています。

「Intro」では、E-phoを始めとしたDEPの各プロジェクトの歴史や理念の紹介、ローム記念館プロジェクトの紹介を載せていきます。

「Photos」には、コンテンツ班が企画した「環境MAP」で撮った写真に加え、DEPの活動写真なども随時公開します。ま

た、写真を閲覧した方にコメントをもらい、そのコメントを抜粋して写真と共に掲載します。

「Contents」は、コンテンツ班が企画したものを紹介するページです。現段階では、「環境MAP」のみですが、これから増えていく予定です。

「Q&A」では、サイトを閲覧して疑問に思ったことや意見、感想を募集するお問い合わせや、よくある質問と答えを一緒にまとめて掲載します。

現状はデザインが完成して環境保全・実験実習支援センターの方から許可をいただいたところで、完成までの道のりはまだ長いと言えます。しかし、これからも非言語で写真を通して環境意識を高めたいという想いを持って、サイト完成(2012年4月1日予定)に向けて日々試行錯誤してまいります。

## 総括

2011年度は、プロジェクトとして根付かせるために、班体制で会議を行い、会議の進行や企画書の書き方を学びました。そして、サイトを完成させるために、各々の班でサイトデザインやブログラミングを学びました。定例会では、みんなで意見を交換しながらサイトの方向性を決めていきました。この1年、多くの時間をインプットに使いました。

その結果、最初は人前で話すことが苦手だったメンバーも堂々と自分の意見を

言うようになり、今では誰もが上回生にも見劣りしない企画書を書けるようになりました。

ただ至らない点もありました。それは、大学団体としての認識の甘さ、及びインターネットの持つ危険性の認識不足です。プロジェクトに責任感を持ってもらうことに重点を置いた結果、一番大事な大学団体であることへの認識が甘くなったのです。そして、その認識不足がサイトを考えるときのセキュリティの欠如を生みました。

来年度は同志社大学の公認団体が発信するサイトとしての自覚を強く持ち、その名に恥じない企画を提供し、私たちが掲げたビジョンに向けて、サイトを発展させていきます。





# +E たくさんの機会に恵まれて

## はじめに

2011年度の+Eメンバーは4名と少なく、そのうち3名は春から新たに加わったメンバーでした。そのため、1つ1つの企画を「環境教育とは何か」、「子どもたちに伝えるべきことは何か」という根本を問い、またそれに自分たちなりの答えを出すための材料集めの機会と捉えて活動しました。

そして、メンバーは少なかったものの、1年に2回も環境教育を実践する機会を得ることができました。1つは、夏に京都市上京区の室町児童館で行った「あそんでまなぶじゅもん」のことは、セイブツタヨウセイ「企画」企画、もう1つは、秋にクロウバー祭で行った「あすみちゃん」とゲームで考える「セイブツタヨウセイ」ってなんだ？」企画です。どちらも、上京区役所の方やクロウバー祭実行委員の方から企画をやってみないかと声をかけていただいたことがきっかけで実現できた企画です。

また、+Eの年間目標として、年度末に+Eオリジナルの教材づくりを行うことを掲げており、企画以外にも勉強会やイベントの参加を積極的に行い、吸収することの多い1年となりました。

を繰り返しながら、自分たちの想いを形にしていきました。情報量が多過ぎると子どもたちには伝わりにくいので、「一番子どもたちに伝えたいことは何なのか」ということを常に考え、企画には一貫性を持たせることを心掛けました。今回の企画で一番伝えたかったことは、ゲームを通して「動物の多様性」を学ぶことで、「自分と友達の間にも、それぞれに得意なこと、苦手なこと、出来ること、出来ないこと」があり、それらを前提として、互いに助け合いながら生きていくことが大切である」ということです。そして、子どもたちに何かを伝えたいときには、相手の年齢等を考慮し、どういった伝え方をすれば理解してもらえるのかを考える必要があると感じました。今回は、「外来種」や「在来種」といった難しい言葉は使わず、人形劇等で、噛み砕いて説明することに努めました。その結果、子どもたちにも無理なく理解してもらったことが出来たのではないかと思います。

## 企画当日

元気な子どもたちが多く、ゲームを精一杯楽しもうとする子が多くいました。ビンゴゲームでは非常に盛り上がり、喜んでビンゴ用紙を見せに来てくれる子どもがたくさんいました。動物の特徴についてわからないことを質問してくる子もいました。ただ楽しむだけでなく、頭も使い、子どもたちにビンゴを通して、いろいろな特徴を持った動物がいるのだと印象付けることができました。また、鬼ごっこは計2回行いました。1回目ではマングース役の

子に、ウサギ役の子がすぐに捕まってしまったため、2回目からは子どもたちの意見を取り入れながら、マングースの数を減らしたり、ゲーム1回あたりの時間を短くしたりするなど、ルール変更することに対応しました。子どもたちは、たとえゲームであっても、勝負事には真剣になる傾向があるので、企画を練る際には公平なルールを考える必要があると強く感じました。

また、今回の企画を実施するにあたり、当日参加のボランティアスタッフをDEPメンバー以外から募集しました。しかし、募集開始時期が遅かったことや、夏休み中であつたために、一人も集まりませんでした。そのため、DEPメンバーからも当日スタッフを募り、最終的には+Eメンバーと合せて計5人で企画を実施できました。今後の課題は、+Eの活動をいかに外部に広め、外部との繋がりを大切にしていくかであると考えています。

そして、今回の企画での子どもたちとの触れ合いを通して学んだことがあります。それは、子どもたちに楽しんでもらうことはもちろんですが、私たち自身も一緒に楽しむ姿勢が最も重要であると気付かされたことです。こちらが楽しそうにしていれば、その雰囲気の子どもたちにも伝わり、お互いに充実した時間を作り上げることができると思いました。これからも、子どもたちとの触れ合いを通して、私たちも一緒に成長していきたいです。

## あそんでまなぶじゅもん セイブツタヨウセイ

●目的  
ゲームを通して生物多様性(遺伝的多様性、種の多様性、生態系の多様性)について理解すること  
・人間関係においても、多様性を尊重することは大切なのだと思わせること

●日時  
2011年8月23日(火)  
10時から12時まで

●企画開催場所  
室町児童館

●対象  
室町小学校の小学生(1〜3年生)  
約40名

## ●簡潔な企画内容

最初に「セイブツタヨウセイ」という言葉を呪文の言葉として提示し、2つのゲームを通して「生物多様性」について子どもたちに学んでもらいました。1つ目のゲームでは、チーム対抗でビンゴゲームを行いました。このゲームは「種の多様性」と「生態系の多様性」とはどのようなものかを知ってもらうことを目的としました。子どもたちに様々な動物に成りきってもらい、動物の特徴が書かれたビンゴ用紙を埋めてもらいました。そして、2つ目のゲームでは、鬼ごっこを行い、生物多様性を脅かす外来種の問題を体感してもらいました。奄美大島における外来

種の問題を取り上げ、在来種(アマミノクロウサギ)と外来種(マングース)に成りきって鬼ごっこをしました。このゲームを通して、マングースの数がどんどん増え、その一方でアマミノクロウサギの数が減っていくことで、子どもたちは外来種によって在来種が危険にさらされて数が減少していくのだという事実を感じ取ることができました。そして最後には、振り返りの時間を設け、ゲームの感想を聞き、ゲームで扱った内容についてわかりやすく解説を行いました。「生物の多様性」とそれが脅かされる仕組みについて理解してもらい、そこから発展させて、自分たち人間にも多様性があり、その違いを受け入れていくことが大切であるということ子どもたちへのメッセージとしました。



●協力者・協力団体  
室町児童館  
室町学区ごみ減量推進会議  
上京区まちステーション

## ●企画詳細

企画作成段階では様々な案を出し合い、より良いものにするために試行錯誤

## ●企画準備

最後に再び紙芝居の続きを行いました。

最後に再び紙芝居の続きを行いました。

●協力者・協力団体  
クロウバー祭スタッフ

●企画詳細  
(紙芝居のストーリー)

森の動物たちは仲良く暮らしていました。しかし人間たちが文房具やお菓子を奪うために森林を伐採してしまいました。そのせいで森の動物達は住処が奪われてしまいました。

その後で、人間たちは自分たちのせいで動物たちの住処を奪ってしまったことに気づき反省し、これからは必要以上に木を切るのを止めました。すると、動物たちが森に戻ってきて木を切る以前のようになり動物たちと人間が仲良く暮らすようになりました。

- 対象  
1回あたり約15名の小学生
- 簡潔な企画内容  
クロウバー祭実行委員の依頼を受けて、クロウバー祭のイベントの一角としてゲルの中で企画を実施しました。まず絶滅危惧種であるオランウータンを主人公とした4枚の紙芝居を行いました。この紙芝居の中で、オランウータンが住処を奪われ、ひとりぼっちになってしまう場面では、子どもたちにオランウータンの気持ちを考えてもらいました。そして絶滅危惧種を身近に感じてもらうために、E.C.C.というカードゲームを行いました。

あすみちゃんとゲームで考える「セイブツタヨウセイ」ってなんだ？



〈企画準備〉

クローバー祭スタッフと打ち合わせを行い、ゲル内で15名程度を対象に30分でできる環境教育という条件に考え始めました。その中で「3E」というカードゲームを活用できないかという案が挙がりました。「3E」とは、70種類の絶滅危惧種が描かれたカードを使い、ゲームを通して『生物の多様性』や『多様性を奪う原因』などを学ぶことができるカードゲームです。

しかしそれは、遊びながら絶滅危惧種について学べるというメリットがある一方で、遊ぶことに夢中になりすぎて肝心の学びの部分が忘れがちになってしまうというデメリットがあります。それをうまく利用するためにはどうしたらいいかを考えました。その結果、絶滅危惧種と生物多様性を表現した4枚の紙芝居を取り入れることで、遊びだけでなく学びの部分も補うことができると考えました。それから、内容の難易度や子どもたちの生活との関連性について話し合いながら、紙芝居のストーリーを決めていきま

した。さらに、ただの4枚の紙芝居ではなく、子どもたち自身にもテーマについてよく考えてもらうために、話の中に空欄の吹き出しを設けるという工夫をしました。ストーリーの決定後、絵の具や色鉛筆などを用いて紙芝居の作成に取り掛かりました。ゲル内の装飾は、画用紙に絶滅危惧種の絵を描き、壁や天井に貼れるように準備しました。また子どもたちへ

●教材作成

私たち10Eが環境教育のための教材作りを始めようと思ったきっかけとして、環境教育活動の活性化のみでなく、世界情勢に合わせていることも挙げられます。2012年6月リオ+20が開催され、テーマとして持続可能な開発、グリーン経済が挙げられています。グリーン経済とは、環境を壊し続ける経済開発の見直しや、再生可能エネルギーの模索、環境対策への投資促進、環境に良い廃棄物の処理方法の検討などを行う経済のことです。そしてこの世界情勢を踏まえながら、今までの環境教育の経験を総動員させ、日本において身近な環境問題に関するテーマを検討し、それを楽しく・おもしろくデザインできる手段を考え、具体化することが目的です。より身近な日本に焦点を当てると、特に持続可能な開発の重要性が唱えられています。持続可能な開発を、もちろん技術面で推進することも可能ですが、人々の意識・行動・態度の変化を求めることで推進することも可能です。

完成した環境教育教材は、私たち10E自身が使用し、子どもたちに環境教育を行います。さらに、より多くの人にこの環境教育教材が周知されるよう広報活動も実施し、10E以外の人にも使ってもらうことで、環境問題に触れる「きっかけ」を自らの手で増やしたい人を助けることも理想として掲げました。教材を作る過程では、環境問題に関す

のプレゼントとして、紙芝居と同じ絵を4コマ漫画のように1枚の画用紙にまとめ、配布できるようにしました。紙芝居のストーリーやテーマも自分たちで何度も話し合って決めました。制作物の作成と並行して生物多様性についての勉強会を開き、自分たち自身の知識の補充にも積極的に取り組みました。

〈企画当日〉

本番当日は、10E以外のDEPメンバーに協力してもらい、参加者の呼び込みを行ったおかげで、幼稚園児や小学生低学年等の子どもたちを合計30名程度集めることができました。そして、子どもたちからは、私たちの作った紙芝居を集中して聞いてくれていました。また3Eを楽しんでいる様子が見られ、ただ楽しんでい



る知識を補強するために、別途勉強会を開き、正確で有益な情報を盛り込み、更に企画を良くできるようにしました。

〈取り組み期間〉

環境教育教材に関する話し合いを2011年12月に開始し、2011年3月下旬に実物の完成を予定しています。途中冬休みなども挟んだため、スタートダッシュは早いとは言えない企画でしたが、会議外の時間を上手く活用することにより、メンバーが対面して話せる貴重な時間を増やし、企画を進めていきました。始めに、教材を用いるメリットを考え、次に、教材を使う対象や場所、扱うテーマ、形式などを決定し、最後に、実際に作成するという大まかなスケジュールを立てて進めました。

まず、12月中に企画の場所・時間・対象・テーマをある程度決定させ、1月中旬にテーマの深掘りと、そのテーマの中で何を伝えたいかという目的設定をスムーズに行えるよう準備を施しました。そして、1月までにテーマをリサイクルと食料廃棄物問題に絞り、1月ではこれらに関して文献調査をし、テーマを決めるための正確な知識を身につけ、最終的に食料廃棄物問題というテーマを設定しまし



た。また3Eのカードに示されている絶滅危惧種にも興味を示してくれていました。

この企画を通してこれから改めていかなければいけない課題が見つかりました。1つ目は、10Eメンバーの人数です。現在は4名で活動していますが、人数が少ないと、企画を行う上で企画内容の幅が狭まってしまいます。今回は10E以外のDEPメンバーに手伝っていただいたおかげで企画を円滑に行うことができました。

2つ目は、子どもたちにとってこの企画は「楽しかった」だけでなく、環境教育として実りのある企画だったのかということです。今回の企画の最後にアンケートを取った結果、多くの子どもたちから感想欄に「楽しかった」という感想をもらい

た。2月には、テーマ・目的の決まったこの企画を、いよいよ教材という形になるよう、練り上げました。

そして、3月には、教材作りに関してメンバーとの議論の上で、自分たちで製作するか、企業に製作を担っていただくか検討しました。最終的に自分たちで教材作りをすることが決まり、教材作成に取り掛かりました。

教材を作成し終われば、いよいよ2011年度の夏・秋の実践本番に向けた企画の議論を行うこととなります。夏には室町児童館へ出向き、企画を実践します。2011年度も同様の時期に生物多様性をテーマとして環境教育を実践しているため、子どもたちが環境教育を受けられることで、どう成長するのかを確信・確信する機会となります。そして秋には松井山手の「つくるところ」へ出向き、同じように企画を実践します。この秋の企画とは、夏の企画を反省し、修正したものになる予定です。

2011年度は、教材作りで終わるのではなく、教材を用い、より効果的に教育成果を上げられる企画の作成にまで踏み込み、長期的視野を持って携わりま

総括

この1年間、自分たちの力で環境教育を実践したり、子どもたちを見守る地域の方々や環境教育に取り組む方々の話を聞いたりすることで、自分自身の環境問題に対する意見や、自分たちが子

ました。そのことから、子どもたちの中には、「楽しかった」だけで終わってしまった子もいたように考えられました。今後「楽しい」だけで終わらない環境教育をどのように行っていくか考えていかなければならないと感じました。

●環境教育教材

●目的  
・環境における日本の課題分析と、10Eの活動経験を踏まえ、それに適切な教材を作成すること  
・作成した環境教育教材を用いて、子どもたちと環境問題との繋がりを知り、そこから考えるきっかけを与えること

●対象  
小学生

●教材内容

日本において身近な環境問題として、食料廃棄物の問題に焦点を絞り、メンバーで勉強し、取り上げるテーマを選択していくこととなりました。手段は講義式のみにとらわれず、子どもたちが楽しく参加できるように、子どもたちがアプローチを考えました。このアプローチは、子どもたちが興味関心を抱きやすく、最も肝心な「きっかけ」作りに大きく貢献します。

2012年の夏と秋には、完成した教材を使って企画を実施することを計画しており、それを目指して教材に関する検討を重ねました。

環境問題に対する自分の答えをはっきりと示すことも、それをたった1回の出会いで子どもたちに伝えることも、とても難しいことです。だからこそ、環境教育を実践して気づけたことやひっかかったことを次に活かし、効果を確かめることをねばり強く続けていかなければ、10Eの成長はありません。きつと、この1年間の成果は、作成した教材を実際に使用し、修正していく内に、見えてくるはず

です。環境教育を創造することこそ、自分自身に対する最も効果的な環境学習だと思います。これからも、環境教育を通して関わる人々と共に学び合い、得たものを多くの子どもたちに発信して行きます。



はじめに

GCが2011年度最も力を入れていたのが広報活動です。GCは主に国際交流をしながら環境意識の向上を目指して活動するプロジェクトです。そこで、企画の参加者を集めるために広報活動をする際、日本語とは言語の異なる人を対象にすることが多くあります。2011年度は、企画の対象に同志社大学内の留学生を設定しました。なぜなら、留学生は身近にいる海外の学生であるため、広報活動に力を入れた成果が得られやすいのではないかと考えたからです。

また、企画を通して自分たちとは違う国で育ってきた人たちと接し、たくさんの学びを得る機会にするため、参加者の国籍に多様性が出るよう試行錯誤しました。



古都ピカ!

概要

目的  
留学生の環境意識・知識の向上

日時  
2011年6月19日(日)

企画開催場所  
同志社大学今出川校地周辺

対象  
同志社大学の留学生

企画内容

同志社大学今出川校地周辺のごみ拾いと拾ったごみの分別作業を行い、自分たちの周りにある環境に直接触れてもらいました。また環境に関するクイズを開催することによって、さらに環境の知識をつけてもらいました。

企画詳細

準備期間

GCでは2010年度に「SPZ」という留学生と共に京都をめぐるながら環境意識を高めることを目的にした企画を行いました。そのときにはたくさんの方々が集まってもらいました。しかし



と広報班に分かれました。企画班では、ごみを拾うルートを決め、クイズの選定、また企画本番のタイムスケジュールの決定などを担当しました。ごみ拾いのルートを決める際には、GCのメンバー全員で何度も下見に行き、どこにどんなごみが落ちているかなど入念な下調べを行いました。また、クイズに関してはメンバー全員で留学生が答えられかつ知識として役立つ問題について考えました。広報班では、留学生を集める方法について考えました。広報手段として行ったのは立て看板の設置と留学生が受講する授



企画を終えて

にその要領で分別してもらいました。

ごみ拾いと分別を終えてから一度教室に入り、ワークショップとして環境クイズを行いました。クイズは3択方式と記述方式のものを用意しました。またごみ拾いをしたチームと同じチームごとに分かれてもらい、同じように競争方式にしたので、参加してくれた留学生も真剣に考えて答えてくれました。メンバーの努力もあり、クイズときも留学生が率先して答えてくれました。

企画を終えて

この企画では、参加してくれた留学生が想定していた人数よりも少なかったという課題が残りました。またそれ以外にも雨天時の想定をしていないなど様々な課題が残りました。それでも参加してくれた留学生が事後アンケートにて「とても満足でき、環境に関する知識も付いた」と書いてくれたので、その点はこの企画の成果です。たくさん課題と成果が出たこの企画を今後活かしていきたいです。



京都市のごみの分別

古都ピカ企画では京都市のごみの分別方法に即してごみを分けました。改めてごみ分別方法を見ると、実は知らなかったこともありました。企画を通して、正しくごみ分別ができていなかったことがわかりました。正しく分別することで、再資源化できるものがあります。

ここでは、「京都市のごみの分別」を紹介いたします。



1 燃やすごみ(家庭ごみ)

生ごみや紙くずなど、焼いて処分するごみのこと  
 —ごみの種類—  
 生ごみ、プラスチック類(容器包装以外)、紙類、ガラス類  
 —ごみの出し方—  
 週2回、右の袋に入れて所定の回収場所に出してください。

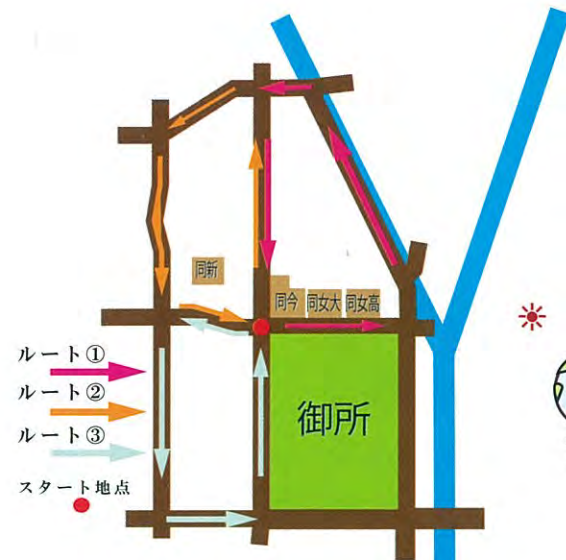


GC

試行錯誤の一年

業での告知と留学生ラウンジでの広報です。特に留学生ラウンジでの広報はメンバー全員で何度も行いました。

そして、本番1週間前に本番と同じタイムスケジュールでリハーサルを行いました。そこで実際にやってみないとわからないような課題がたくさん出てきました。それらの課題を修正して本番を迎えました。



↑ 当日ルート

GCのメンバーと参加してくれた留学生が交流することで、お互いの環境意識を高めることができました。またチームで競い合ってもらったために拾うごみに得点を付けていたので、みんな一生懸命になっごみ拾いをしてくれました。

3チームがそれぞれごみ拾いを終えた後に、全員でごみの分別作業を行いました。そこではメンバーが京都のごみの分別方法やなぜそのように分別するのかなどの説明をして、実際



本番当日

タイムスケジュールとしてはごみ拾い、分別作業、ワークショップの順に行いました。

まず教室に集合して、企画の説明をしてから3チームに分かれ、ごみ拾いを行ってもらいました。3チームそれぞれ違ったルートのごみを拾ってもらいようにしました。それぞれのチーム内で

# ほんとうに環境に配慮した製品とは？ 見極めよう「グリーンウォッシュ」!



持続可能な社会を実現するためには、環境負荷の大きなライフスタイルを変えていくことが必要です。その中で、消費者の立場からできることの1つとして、より環境負荷の低い製品やサービスを利用することが挙げられます。

このような背景から、多くの企業が商品開発を行い、環境負荷を下げる努力をしています。一方で、「環境」のマーケットを意識して、間違った情報や、誤解を招く広告によって、製品を売ろうという悪い風潮もあります。

消費者にとって、品質の判断は容易にできても、環境負荷の判断はとて難しいものです。そこで、生産者には、消費者が製品の環境負荷について、正確かつ誤解を招かないような情報の提供が求められています。

**○グリーンウォッシュとは**  
消費者に対して「環境に配慮したようにごまかす」ような環境表示を「グリーンウォッシュ」と言います。たとえば、全体としては環境配慮製品ではないのに一部の環境配慮を過剰に大きく主張したり、あまいな表現を用いて根拠のない表示をしたり、さまざまなおまかしがあります。欧米では抗議活動も盛んで、70年代からすでに抗議活動があったそうです。

**○「環境にやさしい」?**  
ほんとうに「環境にやさしい」製品・サービスは存在しません。生きている限り、多かれ少なかれ環境に負荷を与え続けています。そのため、「環境にやさしい」というのは、正確で誤解を招かない表示を一緒に表示しない場合、あまいな表現としてグリーンウォッシュにあたるかとされています。

**○表示の基準**  
グリーンウォッシュを防ぐために、企業側には、さまざまな基準が設けられています。たとえば、環境省の「環境表示ガイドライン(改定第二版)」であれば、次のような基準が設けられています。

- ・主張は正確で、実証されており、検証可能である。
- ・あまいな表現や主張の対象が特定されない表示は行わない。
- ・主張内容は、製品のライフサイクルにおける関連する環境側面のすべてを考慮したものでなければならぬ。
- ・特定の用語を用いた主張を行う場合には定義等に注意する。
- ・「メビウスループ」のシンボルマークを使用する際の注意事項。(抜粋)

このような基準があっても、まだまだグリーンウォッシュはなくなりません。公正取引委員会のある調査では、説明不足やあまいな環境表示を使う33事業者についてその証拠を求めたところ、データを用意していたのは半数の15社でした(公正取引委員会、2001, p.12)。また、ISO14020番台は、環境表示の国際標準となっていますが、この部分さえ守れていない企業も多いです。

**○グリーンウォッシュを見分ける10の原則**

- 1 あまいな表現  
「環境にやさしい」「地球にやさしい」「グリーン」などあまいな言葉や表現。
- 2 汚染企業がつくる環境配慮製品  
たとえば、川を汚す企業がつくった省エネ電球など。
- 3 暗示的なイメージ図  
環境配慮を暗示させるようなイメージ例：車の排気管から花が咲いている。
- 4 外的れの主張  
全体としては環境配慮製品ではないのに、一部の環境配慮が大きく取り上げられている。
- 5 クラスで一番?  
他の製品が環境の配慮をしていなくても、その製品とのわずかに環境に配慮していると主張する。
- 6 環境を大切にしたら危険製品  
環境にやさしいはばこ? 環境配慮は製品を安全にしたりはしない。
- 7 わかりにくい表現  
科学者だけが理解できるような専門用語と情報。
- 8 架空の第三者認証  
第三者が保証するように見せかけるようなラベル。
- 9 証明なし  
もし正しいのであれば、証拠はどこ?
- 10 全くのうそ  
ねつ造されたデータ、情報。

**○参考文献**  
竹濱朝美 2001、環境配慮製品の広告表示とISO14021:「すべての自己宣言型環境主張に適合する要求事項について」。

特定非営利活動法人 環境市民 みどりのニューズレター No.212' 2011, p.3-7



**2 資源ごみ**  
一度つかったものを、再資源化して新しい製品にできるごみのこと

—ごみの種類—  
飲料缶、食品缶、飲料びん、食品びん、飲料・しょうゆ用ペットボトル

—ごみの出し方—  
週1回、右の袋に入れて所定の回収場所に出してください。



**5 古紙類**  
新聞や雑誌などもう必要になった紙類のごみのこと

—ごみの種類—  
新聞、雑誌、段ボール

—ごみの出し方—  
（地域で回収していれば、いくつかを一つの塊にして、紐で縛り集めてください。もし地域で回収していただければ、「1燃やすごみ」と同じようして、回収場所にもついで行って下さい。）

**6 その他**  
回収の難しいごみのこと

—ごみの種類—  
紙パック、乾電池、使用済み天ぷら油、リターナブルびん、蛍光管

—ごみの出し方—  
●紙パック  
下記のマークが付いている紙パックは、洗って干した後、区役所や美化施設に設置してある回収BOXに入れて下さい。

●乾電池  
市役所・区役所や、商業施設にある下記のようなBOXに入れて下さい。



●蛍光灯  
下記にあるマークのついた店(主に電機店)に割れない様に持って行って、受け取ってもらって下さい。割れてしまったら、そういった店が近くにない場合には、「1燃やすごみ」と同じにして、ごみを出してください。

●使用済み油  
料理で使用した後の油は、スーパーなどに回収容器がありますので、その容器に移し替えて下さい。回収場所と時間については、まち美化推進課(075-213-4960)に電話でお問い合わせれば、教えてくれるそうです。(引用:京都市ホームページ)



**総括**  
今年最も力を入れていた広報活動に課題が残りました。今までの経験を生かし、留学生ラウンジや留学生の受けている授業に直接広報しに行ったのにも関わらず、企画に集まった人数が3人という不甲斐ない結果になってしまいました。そこで、広報活動に力を入れるだけでなくもっと企画を魅力的にする必要性を強く感じました。いかに広報を頑張っても、その企画に魅力を感じられなければ参加しようとは思ってもらえません。企画を考えるときに、自分たちの目線からしか考えることができていなかったのが、留学生から見ても魅力的ではなかったのではないかと考えました。今後の企画を行っていく際は、この企画で得られた反省を活かし、留学生の目線に立って、対象が何を求めているのかをもっと追求して企画を考えていきます。

# 3eee ～第3回討論会～ 京都市における エコ・コミュニティ活性化に向けた 政策提言

## はじめに

環境活動には、一人一人に対して環境に配慮した行動を促すことを目的とした環境啓発活動のほか、自治体やそれに準ずる機関に影響をもち、公共政策の形成及び変容を促すことを目的としたアドボカシー活動(※1)があります。私たち、環境政策プロジェクト(以下3eee)第三回環境学生討論会(以下3eoc)は、京都市役所に対して学生の視点から社会のあり方や理想像を提示し、そのための具体的な方策を提言するアドボカシー活動に挑みました。また、本プロジェクトには同志社大学の学生をはじめとした全国から22名の学生が参加しました。提言先となった京都市は、2009年に低炭素社会の実現を目指す環境モデル都市に選定されています。低炭素社会の実現に向けては、大学・高校・小中学校など京都市内の様々なコミュニティの風土や文化に合ったエコ活動を活性化しながら、環境に配慮したライフスタイルを確立することが必要となります。3eeeは、そのような社会のニーズに答えるべく3つの政策案を京都市に提言しました。

(※1)アドボカシー活動：政策提言活動

## 概要

本プロジェクトは、メンバー間のチームワークの強化や京都市内の環境問題についての現状把握及び有識者のヒアリング調査に重点を置きました。また、左記のスケジュールに沿って京都市の抱える課題を整理して政策立案に励みました。

## 準備期間

### スケジュール

5月	キックオフミーティング
6月	京エコロジーセンターヒアリング
7月	気候ネットワークヒアリング
8月	他大学合同夏合宿
	京都市民のニーズを発掘！
	アンケート分析
11月	イベント
12月	政策提言日

## キックオフミーティング

2011年度は、三重大学、南山大学、山梨県立大学などといった他大学と連携して活動することになっていたため、5月に活動方針の確認と顔合わせを兼ねたキックオフミーティングを京都市のひと・まち交流館で開催しました。当日は朝早くから他大学を含めた全メンバーが顔をそろえ、活動方針の確認、自己紹介を終えた後、「食と農」「エネルギー」「廃棄物」それぞれの班に分か

れ、ワークショップを行い、自分たちが思うところについて自由に意見を交わしました。そして当日はメンバー間の意見交流だけでなく、NPO法人から講師を招き、京都市における政策提言活動の現状や自分たちが今後活動していく上で重要となる様々なアドボカシーをいただくことができました。9月1日にわたるキックオフミーティングを開催できたおかげで、メンバー間の親睦も深まり、その後行われる会議でも互いに遠慮することなく活発な議論を展開させることができ、会議も非常に円滑に進めることができました。

## 京エコロジーセンター

6月には京都市の環境問題に対する取り組みなどを広く理解するために、フィールドワークの一環として京エコロジーセンターにお邪魔しました。ここでは建物全体で、太陽光発電、雨水利用、地熱利用、高断熱外壁、ピオトープをはじめ、省エネルギー・省資源型の設備を導入し、さらに、自然素材を生かした材料やリサイクル建材も活用しています。当日は職員の方に建物全体を案内してもらった後、京都市の環境問題に対する取り組みを教えていただき、京都市が参考にできるような海外での環境問題に対する事例もいくつか紹介していただきました。またその後の質疑応答の中では自分たちが政策を立案するうえで参考になるお話もあり、半日を通して非常に充実したフィールドワークとなりました。

## 夏合宿

京都市への政策提言のため、二日間の合宿を行いました。目的は、京都市が行った「歩くまち京都市民アンケート」「京都市政に対する市民アンケート」「DO YOU KYOTO」市民アンケート報告書などから、京都市民の環境に対する意識やそれについての行政への要望を分析することで、京都市民のニーズを把握し、政策が机上の空論にならないようにすることです。

1日目は、班ごとにそれまでの会議を振り返り、アンケートを分析して、政策案の骨子を作りました。その後、各班で作りたい政策案の方向性を発表し合い、お互いに意見を述べ合い、フィードバックを得て、さらに政策案に磨きをかけ、文章にし、内容をまとめました。

2日目は、1日目に作り上げた政策案を、実際、環境活動に従事されている方に評価して頂きました。ご協力頂いたのはNPO法人木野環境様です。企業・自治体の各種調査、研究、ワークショップ、イベントなどの開催を通じて、環境活動をサポートされており、企業などの営利目的のある会社に対してコンサルタント業務をされていることから、自分たちが作った政策案を実際にシステムとして組み込んでもらうために必要なアドバイスをいただけることを考え、ご協力いただきました。実際に政策案を見ていただき、内容の具体性をもたせること、作った政策案と京都市の基本計画と照らし合わせ、類似点がないか、すでに実行されていないかをチェックするべきだとアドバイスをいただきました。それから、各班とも政策完成の足掛かりとなるテーマ、「食

と農」班は地産地消、「エネルギー」班は省エネ設備、「廃棄物」班は3Rの普及と環境教育という方向性を作ることができました。

## イベント

今回のプロジェクトの一区切りとして、京都市民活動総合センターの西本様をアドバイザーとしてお呼びし、最終成果報告会を行いました。リハーサルで各班がパワーポイントによるプレゼンの最終確認を行った後、西本様・プロジェクトメンバーの前で発表しました。各班のプレゼンに対し、西本様から以下のコメントをいただきました。

①食と農「北部との連携を図りオール京都府で行う点が良い。地産地消が追い風となっている時に同志社から広めていくことは大事。」

②エネルギー「小中学校の環境教育はあっても高校生は空白部分であり、対象としていいと思う。既存のシステムを周知することは大切。授業の前身は学生で提示したらいい。保護者の前でうちエコ診断のプレゼンをするのはいいと思う。」

③廃棄物「生ごみ肥化の環境教育は以前からやっていたが何回かつぶれてしまっていたので、良い着眼点だと思う。」

④全体「学生がこういった取組をすることは大切。どの政策も具体的な内容をもう少し詰められれば良かった。けれど、どれも京都市の問題点を的確にいたものに仕上がっている。」

各班が政策のフィードバックをいただき、それぞれの改善点を洗い出すことで、政策案を振り替えることができました。また、プレゼン

## 政策内容

### 食と農

#### 背景

①農業についてグループ内で話し合ったところ、「農業離れ」がキーワードとして浮上ったところ、農地の減少、若年層の農業への関心不足、一次産業の衰退が進んでいることがわかり、その影響で、近年日本の食料自給率も低下の一途をたどっており、現在先進国中で低い水準にあることがわかった

以上の背景から、今年度の3eeeの活動を経て何か貢献できないか、私たち学生に何かできることはないか、そのような思いから今回の活動をスタートさせました。

そして話し合いを重ねた結果、現状では、将来農業経営を考えている人やただ農業に興味を持っている人がいたとしても、その意識レベルを向上させていく環境が整えられていないため、まずまず若年層の農業離れが進むのではないかと考えることができました。

## 政策の目的

大学生を主な対象として、京都府内で農山漁村型のインターンシップを開設し、  
①農業を実際に体験する機会を与える  
②就農を考えている大学生に、農業経営について学ぶ機会を与える

以上の2点を目的としています。

## 政策内容

「地域環境インターンシップによるエコ大学・コミュニティの活性化事業」と題する政策案を作成しました。本政策は、大学生を中心に、農業を実際に体験し、併せて農業経営の実態を知ってもらえるよう、『大学コンソーシアム京都』のインターンシップ・プログラムの中で、京都圏5拠点でさまざまな農山漁村型のインターンシップの機会を提供するという内容のもです。大学と役所とが協力し、学生、そして社会人からも参加者をつくることで地域全体が農業に興味をもってもらえるように意識しました。そしてインターンシップに参加したという経験だけでは終わらせず、その経験を活かして各自でビジネスプランを設計してもらおうようにしました。このように、経験を実践に移すところまでサポートすることが今回の政策案の一番のポイントだと考えています。

本政策案を詰めていくなかで、他大学の学生とも定期的にインターネットや合宿を通じて話し合うことができ、今までにない貴重な経験をすることができました。この貴重な経験をこれからの活動にも活かしていきたいと思えます。

### エネルギー

#### ―背景―

①京都市のCO<sub>2</sub>排出量の中で、ほかの部門の排出量は減少しているにも関わらず、私たち学生が一番身近な家庭部門のCO<sub>2</sub>排出量だけが年々増加しているという背景

②東日本大震災により関西電力所有の原子力発電所が十一基中七基停止し、節電の必要が迫られているという背景

以上の背景から、有効な対策を立てることを目標として活動しました。まず私たちは、現状を知るために、京都市政アンケートを分析しました。その中で、多くの人々が省エネ商品を買わない理由として、「省エネ製品を使うことでどれくらいエネルギー問題の解決に貢献できるのか実感できない」という意見が多いということがわかりました。そこで、学生に対して、省エネ製品を使うとどれくらいエネルギー問題に解決できるのかを実感できるような環境教育が実施出来れば、将来的に省エネ製品がもっと普及し、エネルギー問題の解決に少しでも近づくのではないかと考えました。

#### ―政策の目的―

省エネ製品の効果が実感できるような環境教育を実施し、省エネ製品を普及させることで、

- ①エネルギーの節約に貢献すること
  - ②学生の環境問題に対する意識を向上させること
- 以上の2点を目的としています。

#### ―政策内容―

学生に対する環境教育として、「省エネ設備を普及させるためのワークショップ」を年2回、冷暖房の使用ピーク時である6から7月、10から11月に行います。

1回目は、入門編として、地球温暖化・エネルギー問題に関する基本的な知識を学べるワークショップを実施します。2回目に、省エネ製品を導入すること、どれくらいエネルギー問題解決に貢献できるのかを実感できるようなワークショップを実施します。具体的には、省エネ製品を導入した場合のシミュレーションができる次の2つのサイト①太陽光パネルシミュレーションサイト②うちエコ診断サイトを活用し、学生自身に「自分がどのような製品を選べばどれくらいエネルギー問題解決に貢献できるのか」を実感してもらいます。例えばうちエコ診断サイトでは、居住地域や家族の人数、部屋の広さ、冷暖房使用時間・温度設定、ガス・電気代などを入力することでその家のエネルギー消費を分析し、平均の光熱費との比較や、家のどの分野からの

CO<sub>2</sub>排出量が多いか、太陽光発電・エコキネート・省エネ型エアコン・節水シャワーヘッドなどを取り付けるとどれくらいCO<sub>2</sub>が削減され、いくらくらいの節約になるか、といったデータを目で見える形に示していただけるので、学生は省エネ製品の効果を具体的に実感することが出来ます。

以上のようなワークショップを継続的に実施することで、エコ製品を普及させ、エネルギー問題解決に貢献することを目指します。

### 廃棄物

#### ―背景―

①京都市の抱える廃棄物問題

「京都市循環型社会推進基本計画」京のごみ戦略21」によると、生ごみは定期収集ごみの約4割と高い割合です。さらに、現在使用している伏見区内の埋め立て地が数年後には満杯になり、新しくごみ処理場を建設しても、20年以内に満杯になる予定です。以上から、「上流部分での対策（発生抑制や再使用など）ごみが発生しない仕組みづくり」を目指す京都市政に合わせ、廃棄量の減少と効率のよい無駄のないライフサイクルの創出が必要となります。

②日本のリサイクル技術について  
日本のリサイクル技術は、世界トップクラスの水準です。中でも、日本の生ゴミの再資源化は、効率よくリサイクルがで

き、コンポストによる堆肥化は今後の廃棄物対策として大きく発展することが見込まれます。

以上より、環境教育を通して家庭における意識を改善することを目標として活動しました。

#### ―政策の目的―

京都市内の学校・学区を中心に、地域で協力しながら生ごみの堆肥化に取り組むことを推進する環境教育政策を作成し、市民にごみから堆肥づくりを経験してもらおう。このような経験を通して、家庭内で消費・廃棄をする際に3Rの意識を強く持つてもらい、ごみの排出を抑えることで、環境に負荷の軽減を目的としています。また併せて、学校・地域における交流を深める目的もあります。

#### ―政策内容―

エコ学区などの小中学生や地域の方々コンポストでごみを再利用した堆肥づくりをします。その堆肥を使って育てた花を地域の緑化に活用します。同時に、環境教育をすることによって、廃棄物問題についての知識、意識の向上を図ります。政策対象としては、

山科地域を除くエコ学区13学区を考えており、選定した小中学校の総合時間2回分を使います。

《総合時間1回目：コンポストによる堆肥づくり》  
給食の残飯を堆肥化用の容器に入れ、準備をする過程と、完成した堆肥を混ぜた土に苗を植える過程を経験します。

政策の対象を拡大していく、幅広い層の方に堆肥づくりを経験してもらいます。

《総合時間2回目：環境教育》

主に廃棄物問題についての講義を行うことで、体験の印象をより強く残し、知識の定着を促します。小中学生に対しては京都市内の大学生が、大人に対しては廃棄物問題に関する市の職員や大学教授が講義をします。以上述べた方法により、家庭内におけるごみ減量を目指します。

### 各政策案に対するコメント

#### 食と農

担当者様の事前の伝言より

学生団体でインターン受け入れ先を見つけたら、同志社大学が所有する農地を利用し、学内で募集をかけ、試験的に実施してみようか。

### エネルギー

教育委員会事務局

指導部 様より

エコ家電のみに焦点を当てた授業は京都市立高校では実施されておらず、文科省より要請されている環境教育のカリキュラムを実施しています。堀川高校、紫野高校、日吉ヶ丘高校、塔南高校、西京高校、京都堀川音楽高校、銅駝美術工業高校、伏見工業高校、洛陽工業高校では各校の特徴を生かした環境教育を実施しています。中学校までは全体でカリキュラムを一律化しているもの、高校は専門的かつ進路保証も必要となるため、カリキュラムを一律化するのは難しいです。しかし各校に適したカリキュラムを実施していくことは可能です。普通科高校なら、ある程度カリキュラムを一律化することが出来るため、学生には環境問題について考えるきっかけを与えられるような授業を引き続き実施していきたいです。昔に比べ、環境教育は重要視されています。日頃の授業はもとより、総合的な学習の時間とリンクさせて環境教育を実施しているのが現状です。けれども、どの分野においても環境問題について考えなくてはならないため、環境問題に取り組んでいる人から実際に話を聞くことができれば、環境問題に対しても興味を持つ人が増えると思います。そのためにも高校から環境教育の切り口を増やしていくことが重要です。企業や大学教授に対しては環境教育に対する

### 廃棄物

協力を求めています。

環境政策局

循環型社会推進部 様 より

2010年に「ごみ半減プラン」を作成しました。本計画では、2020年までに39万トンまで減量させることを目標に掲げています。伏見の水垂埋立処分地は、10年ほど前に埋立てを終え、現在は、伏見の醍醐にある東部山間埋立処分地が稼働しています。京都市は山に囲まれているため、新たに埋め立て場を作るのは難しいです。一般的に、ごみの分別・リサイクルは、一旦ルールを作れば、比較的進んでいくのですが、そもそもごみを減らすリデュース・リユースは簡単そうに難しく、これを推進することに力を入れていません。生ごみは、ごみ全体の約4割を占めています。これだけは分別が非常に難しいです。3年ほど前に生ごみの分別収集実験を行いました。分別への協力が上がりましたが、缶・びん・ペットボトルと違って、分けて保管するときの臭いが問題になるためです。市では、コミュニティ単位でごみを資源に変えるリサイクル活動を進めています。一次堆肥まではその場にあるコンポストで行い、二次堆肥は業者に委託しています。小学校の給食ごみの分別はすでに行っており、試験的に堆肥化装置を置いてもらおうとしています。しかし、小学校全体で行えているわけではないので

ん。また、現状として、地域とともに進んでいっていませんが、落ち葉を堆肥にする取り組みを行っている地域はあります。生ごみに関しては難しいのでまだ行えていません。各大学に対しては、ごみ減量の指導は行っていますが、学生個人にまでは行き届いていません。また食育によつて、食べ物の大切さを子どもたちは学んでいます。その際には市民からボランティアを募って地域の方々とも協力して行っています。

### 総括

環境政策局

地球温暖化対策室 様より

京都議定書誕生の地・京都において、将来を担っていく皆様が環境問題に関心を持ち、その解決に向けて議論を重ねられてきたことは大変嬉しい限りです。市人口の1割を占める学生は、本市における環境活動を牽引していく重要な役割を担ってられます。低炭素社会の実現に向け「DO YOU KYOTO?」環境にいいことですか?」を合言葉に、環境にやさしい取組を広めて参りましょう。皆様の今後の御活躍を期待しております。





3seeでは、今年度の活動を振り返り、またDEPの存在を全国に広める機会として、昨年の12月26日から27日に東京で開催された「第9回全国大学生環境活動コンテスト ecocon2011」に出場させていただきました。エココンとは、環境活動に携わる全国の大学生が一堂に集まり、各大学が自分たちの活動内容をプレゼンした後、質疑に応じ、それらを基に審査員が評価し、順位を競い合うコンテストです。いかに自分たちの活動をアピール出来るかが勝敗を決めますが、そのためには、自分たちの1年間の活動を振り返り、そこに意義を見つけて出す必要があります。なぜその活動を行う必要があるのか、何を目的として行っているのかといったことを明確にし、それを外部に伝えるにはどうすればよいのかを考える必要があります。私たちはエココンに参加することで、1年間の活動を見つめ直すことが出来ました。26日に予選が行われ、私たちは今年度3seeで行った政策提言活動をプレゼンしました。予選での審査基準は5分のプレゼンに加え、4分の質疑に答えることがメインです。予選グループで戦った他大学は目に見えるエコ活動に取り組んでいたところが多く、活動がイメー

ジしやすいなかで、政策提言を行っている3seeとしては審査員の方々に自分たちの活動内容をイメージしてもらうことに苦心しました。また、政策提言というスタイルゆえに、行政に関わる範囲にも限界があり、主体性・継続性という観点からは、他団体と比較すると弱い部分があるという点も事実でした。ただ、他大学と比較して3seeの政策提言活動はメジャーでない分、特色をアピールできたと思います。結果は残念ながら予選で敗退し、翌日の決勝に進むことはできませんでしたが、しかし、今回のエココンを通して、自分たちにはユニークな環境活動を行っており、それをアピールできたことなど、達成できたと思える点がありました。それと同時に、審査員の方々にうまくイメージしてもらえなかったなど反省点も明確にすることができ、またそれらをしっかりと受け止め、改善していくことで、来年度の活動をより充実したものにしていきたいと思います。今年度の活動では政策提言というシステム作りの面を重視してきましたが、来年度は今年度の反省点も踏まえ、自分たちが学生が地域とより主体的に関わっていくという姿勢を大切にしたいと思っています。



また、エココンでは環境活動に関わる全国の大学



生と触れ合い、お互いに良い刺激を与え合うことが出来ます。環境へのアプローチ方法には様々な形があるのだということを再確認したとともに、どの団体のプレゼンを聞いていても、モチベーションの高さを感じました。ある団体の方々が、「環境に関心のない人々に対して、どのような働きかけをしていけばいいのかを考えながら環境活動を行っている」と話されており、非常に印象的でした。このように見習いたいと思える志を持った多くの方々に出会う



ことができ、学びの機会にもなりました。エココンに出場することで得られた学びを、今後のDEPの活動に活かしていきたいと思えます。そして、これから環境活動を行っていく際には、全国に仲間あるいはライバルがいるのだということを常に念頭において頑張っていきたいと思えます。

総括

政策提言を終えて

2011年度、3seeは、前年度の群馬県の堀恋村から自分たちの身近な京都市へと提言先を変えてアドボカシー活動に励みました。環境に関する先進事例を読みあさり、度々京都市内のNPOへヒアリング調査を行うなど学習を重ねて、京都市内の課題を顕在化させたアドボカシー活動ができたと思います。その一方で、地域に密着した実践的な環境活動ができたのかという点で大きな反省点が残ります。今後は、アドボカシー活動の過程を地域社会と密着して実践的な環境活動を交えたものにするのが大切になるでしょう。

私たちは、今後も学内外問わず社会に対してアドボカシー活動を行います。アドボカシー活動は社会性と政治性の高い取り組みなので、社会の情勢に左右されやすく困難が付きまといまいます。しかし、私たちは、困難を乗り越えながら社会に対して主張する姿勢こそ、時代の過渡期中、学生が目指すべき姿だと信じて、大胆に社会へ提言し続けたいと思います。

はじめに

あすみチャンネルは「不特定多数」に向け、映像コンテンツという手段で環境意識の改革に挑戦しています。より多くの方々に環境活動に対して興味を持ってもらうために、視聴者のニーズやレベルに合わせた映像を制作することが必要です。そこで2011年度は、特に「情報を享受する側」の視点を重視し、映像制作に取り組みできました。

また、2011年度のテーマは「京都の環境問題に関する映像を制作し、テレビで放映する」ということでした。映像コンテンツを創出するだけではなく、それを一般的なメディアであるテレビからの情報発信も試みしました。

あすみチャンネルの紹介CM

あすみチャンネルを知らない人に活動内容などを紹介すること

対象 主に学生、特に環境や映像制作に興味がある人

放映した場所

同志社ローム記念館内劇場空間

放映した期間

5月数日間上映

CM制作過程

粘土で作った「あすみちゃん」をカメラで撮影し、それをPremiere Proで繋げる「コラージュ」の手法で制作を行いました。

CM内容

「あすみちゃん」が案内人となって本プロジェクトの紹介をしました。



省エネ活動推進CM

目的 毎年同志社大学で行われている省エネ活動を周知させること

対象 同志社大学に所属するすべての人

放映した場所

同志社ローム記念館内劇場空間

放映した期間

5月から6月

CM制作過程

Illustratorを使用して女の子のアニメを描き、その画像をPremiere Proを用いて編集しました。

CM内容

DEPの省エネ活動に関するものです。エアコンの温度設定に着目した内容で、28度設定

を呼びかけるために制作しました。

わくわく！ 森林トレジャーハンター

目的

- ①自然で遊ぶことにより子どもたちに自然の楽しさ・魅力を感じてもらおうこと
- ②森林で楽しく遊んだという経験を持ち帰ってもらうこと

イベント日時

- ①2011年11月5日(土) 11時45分から 14時45分
- ②2011年11月6日(日) 12時から14時

簡潔な企画内容

本企画は、あすみチャンネルが2011年度クロバー祭にて主催・運営・実施した環境教育プログラムです。企画当日は、同志社ローム記念館内劇場空間、同志社大学内里山、理化学館裏、医心館横などを利用して実施しました。あすみチャンネルが映像技術を通して、社会問題になりつつある「子どもが自然離れ」に対して取り組みました。そのために、大学内の自然を使ってネイチャーゲームを体験するというイベントを企画しました。ただゲームをするのではなく、子どもたちが目的を持って取り組めるように「トレジャーハンター」という形式で催しました。また企画終了後は、さらなる環境意識の啓発を目的としたエンディング映像の制作と本企画の完全マニュアルを作成し、DEPに環境教育プログラムとして保存しました。

# あすみチャンネル

## 環境問題を映像で発信



【対象】  
京田辺市に住む小学生(小学校中学年)と保護者

【企画詳細】  
オープニング映像の制作

オープニング映像は、トレジャーハンターに参加する子どもたちがイベント開始時に見る映像です。この映像は、子どもたちを森林ハンターへと誘うことを目的とした映像であり、主な内容はトレジャーハンターをする理由の説明とルール説明でした。

映像は、DEPメンバーが突如パソコン上に現れた「ボス」を発見するシーンから始まります。DEPメンバーが大切にしていた5つの宝石を盗まれてしまいました。その宝石を、DEPメンバーと参加者である子どもたちが取り返しに行かなければならない、というストーリーです。子どもたちが理解しやすいように、難しい言葉の使用を避け、単純で分かりやすいストーリー構成の制作に尽力しました。今回は、バーチャルな世界から現実世界でのトレジャーハンターに出かけるという設定ということもあり、子どもたちに使命感を与えるような言葉を使用するなどの工夫も凝らしました。

制作は映像構成、絵コンテ作成、撮影、ナレーション録音、編集といった手順で行いました。撮影はDEPメンバーに演者として協力してもらいました。また、ボスが登場するシーンではスタジオで撮影し、クロマキー合成技術(※1)を用



いて編集を行いました。また、ルール説明では、Illustrationを用いてキャラクターアニメを制作しました。わかりやすいナレーションと可愛らしいキャラクターで丁寧なゲームの説明をすることに努めました。

(※1)クロマキー合成技術:ブルーバック(青色の背景)で撮影した映像に別の映像を合成する技術

【イベント準備・当日】  
【ネイチャーゲーム】

本企画の実施にあたり、企画内でネイチャーゲームを実施することになりました。実施するネイチャーゲームは企画班独自で考えたものや社団法人日本ネイチャーゲーム協会のホームページで紹介されているネイチャーゲームの中から5つを選定しました。それぞれ動き回るようなものから、頭を使つて考えるものまで様々な内容のものを用意しました。

第2ステージで実施した「動物交差点」では、回答者から見えないように背中に付けられた生き物の絵の特徴を、周囲の仲間たちに質問をしてヒントをもらいながら当てていくゲームを実施しました。動物から昆虫まで幅広い生き物を当てるゲームだということもあり、子どもたちも一生懸命考えながらヒントを出したり答えを考えていたりしました。

第4ステージで実施した「同じものを見つけよう」では、敵の手下が持っているものと同じ、落ち葉や花を見つけるゲームでし

Pメンバーが積極的に子どもたちに話しかけることで、緊張気味だった子どもたちとも打ち解けることができました。各ステージのネイチャーゲームでは、子どもたちの元気と勢いに圧倒されながらも、リハーサル通りの流れで問題なく実施できました。前日のリハーサルでは、ネイチャーゲームを通して子どもたちに伝えたい環境への思いなどを改めて確認していたこともあり、ひとつのゲームが終わるとにスタッフ子どもたちの視線になり、丁寧に伝えている姿が印象的でした。



【リハーサル】  
本企画実施前日に全体リハーサルを行いました。リハーサルでは、当日にスタッフとして参加するDEPメンバーに参加者として企画を体験してもらいました。実際に使用するコースの歩き時間を計ることで、危険箇所や子どもたちに注意すべき場面など、改めて確認することができました。また、スタッフとして参加するメンバーに対して、どのような目的意識を持ってゲームに参加するか、などのスタッフとしての心構えも確認しました。

【当日】  
企画班は当日、企画実施前にオープニングのリハーサルを行いました。

1日目は正午過ぎから受付を開始し、14時に本番をスタートさせました。オープニング映像の上映では、子どもたちが食い入るように映像に集中して見てくれました。その後のネイチャーゲームの実施場所に向かう道中では、スタッフであるDEP



保護者の元まで全員で送り届け、見送りました。小雨が降る中での企画実施となりましたが、トラブルもなく全員が笑顔で手を振り帰ってくれたことに、喜びを感じ

た。同じものを探すために、じっくりと植物を観察することで自然への関心を高めることができました。

最終ステージでは、全体の振り返りを含めたクイズ形式でのオリジナルのゲーム「トレジャーQ」を実施しました。各ステージで登場した敵が勢揃いし、ペアになっている子どもたちに対して、ステージごとの質問を行いました。少し難易度の高い問題も含まれていましたが、引率のスタッフがサポートすることで全員が正答することができました。

【安全面】

参加者にとって安全・安心な企画にするため、事前に本企画で使用する施設やルートの安全を2度チェックしました。それにより、いくつかの危険箇所を洗い出しました。その危険箇所や子どもたちにより注意を払う場面などをあらかじめ想定し、当日スタッフのメンバーに事前に伝えるなど、対策を講じました。

【キャラクター設定】

企画班では子どもたちが「トレジャーハンター」であると自覚してもらう為に登場人物のキャラクターにも工夫を凝らしました。登場する刺客には、「リ・サイクル」「エルニーニョ」「森林三郎」「マチュ・ピチュ」「C」



ました。

2日目も同様に企画実施する予定でしたが、天候に恵まれず、安全面に配慮し中止という措置をとりました。

【事後企画】

【エンディング映像の制作とアンケート調査】

クローバー祭企画の終了後、「子どもたちがイベントで感じたことを、その場だけのものにしたい」という思いから、イベントに参加した子どもたちへ送付するエンディング映像を制作しました。この映像で中心となっているのは企画当日の映像です。これは「自分が出演していること」で映像が子どもにとって特別な意味を持ち、じっくりと映像を見てくれると考えたからです。

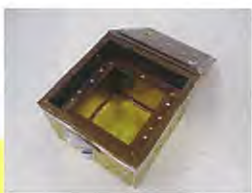
この映像は、当日に企画の冒頭で流したオープニング映像と連動しており、宝石を盗んだ「ボス」は実は悪者ではなかった、というところから始まります。続いて、ネイチャーゲームを通して実際に森林で感じたことだけでなく、環境問題に関する具体的な知識も得られるように、企画に登場した5人のキャラクターの名前に合わせて環境問題を学べるという構成にしました。例えば、第1ステージで登場したリ・サイクルの場面では、ゴミの分別がどのように役立つのか、第3ステージで登場した森林三郎の場面では、森林の減少が及ぼす影響、第4ステージで登場したマチュ・ピチュの場面では世界遺産についてなどです。イラストや写真を随所に取り入れ、子どもたちが視覚的に覚えられるように、わかりやすく環境問題に関する解説を入れ、映像

「O」など、全て環境に関する名前を付けました。これは、子どもたちが覚えやすく親しみやすさを出す事ができると考えたからです。また、それぞれのキャラクターに特徴、性格などを詳細に設定することで世界観を作り、子どもたちを飽きさせることなく企画を実施することができました。一人ひとりのキャラクターの喋り方や動作など、個性を出すことで、印象の強い仕上がりとなりました。

【使用する備品】

本企画で使用する備品は、自分たちで作成するように努め、それ以外は購入、またはレンタルして補いました。登場するキャラクターが身につける衣装や小道具などにもこだわりました。

企画のパンフレットやトレジャーマップはイラストを多く取り入れ、視覚的にも楽しくなる工夫をしました。パンフレットには企画のあらすじや登場するキャラクターの特徴を書きました。そうすることで、子どもたちにあらかじめ企画の趣



を制作しました。

このエンディング映像の送付の際に同封した保護者向けのアンケートでは、「主題が明確で子どもにも分かりやすく良い企画だった」「これはリサイクルできるの?」など聞いてくるようになった。「などの意見が寄せられました。また、普段の生活であまり接することのない大学生との触れ合いを、子どもたちはとても楽しんでくれたようでした。事後映像のDVDでは、「画面に映った自分の姿を見てとても喜んでいった」という意見も頂き、当初の目的を達成できたことをとても嬉しく思いました。

この映像制作では、あすみチャネルの映像活用の新たな方法を見つけることができました。どうすれば制作した映像を最後まで見てもらえるか、また、環境に対してより興味を深めてもらえるか。あすみチャネルのプロジェクト活動の根幹を成すこの問いに、「このエンディング映像で一つの答えを提示できたように感じます。ただこの映像制作は、あくまでも対象が少数人数であるため、成り立ったことです。今後、いかに視聴者に映像を見てもらい、多くの人に環境に興味を持ってもらえるかを考え続けていきたいと思います。」



### ●完全マニュアル制作

企画実施後、あすみチャンネル初めての取り組みとして、完全マニュアルの制作を行いました。昨年度までの活動では、企画の実施後にアンケート収集などのフィードバックを行うだけで、その企画内容を記載した文書などの制作は行っていませんでした。完全マニュアルを制作するに至った経緯は、今後同様の企画を実施する場合には、「企画の保存」を行うことが効果的であると考えたためです。完全マニュアルでは、企画・映像制作班・広報班でそれぞれの担当箇所を制作し、企画実施にあたっての背景や目的、企画内容などを詳細に記載しました。例えば、スタッフリストのページでは、企画のプロデューサーがどのような役割であるか、ディレクターはどの視点から企画を作り上げていくかなどが書かれています。演者のページでは、キャラクター設定や、それぞれの演者のセリフ、着用した衣装は文章だけでなく写真に掲載しました。

「客観的な視点で書く」ということに留意し、第3者が見ても理解できるように、写真や絵、地図などを使い視覚的にもわかりやすいマニュアルの制作を心がけました。さらに、企画に参加する全ての人の動線が書き込まれている「企画マップ」を、完全マニュアル用に新たに制作しました。また必要な備品や当日のスタッフのタイムスケジュールなど、企画に使用された全ての資料をまとめました。



### ●アンケート結果からの反省

あすみチャンネルでは本企画を実施した後に全参加者とその保護者の方々に向けて、事後映像を収録したDVDを送付するとともに、本企画の事後アンケートに協力してもらいました。事後アンケートは参加者（子ども）用と保護者用の2種類に分けて各々アンケートにご協力いただきました。参加者用では極力難しい表現は避け、子どもでも容易にアンケートの質問の意図が分かるようにしました。参加者には本企画に参加した感想やその後の意識、生活習慣の変化についての質問をしました。保護者には本企画に関する感想や評価に加え、本企画に参加後の参加者の意識や様子の変化についても質問を盛り込みました。

このアンケートは本企画が参加者の「環境」に関する意識の向上や外で遊ぶ機会の増加に貢献できたのかを評価していただくために実施しました。アンケート結果からは、子どもたちが環境に対して意識するようになったという意見も多く見られました。が、企画の細かな点での課題が明らかになりました。本企画における世界観の設定に甘い点が見えたということもわかりました。私たちが考えている以上に子どもたちの感性は豊かで、スタッフの何気ない一言が、子どもたちと企画の世界観を作っているということに気付かされました。けがはなかったものの、安全面において危険な点があったことがわかりました。今後はこれらの反省点を活かして、より質の高い映像制作活動に注力していきたいです。

## あすみチャンネル&環境特集2

### 省エネ番組

#### 目的

同志社大学では3年前から夏は28度、冬は20度のエアコンの温度設定を採用し、省エネルギーを推進しています。その旗振り役となつてのがDEPであり、省エネルギー推進委員会です。本年度には、省エネサミットの開催をするなど、省エネに対する活動も少しずつ幅を広げています。しかし大変有意義な活動であるにも関わらず、学生、教職員、そして社会に対してこの省エネ活動の意義を知る場面が少なく、あまり知れ渡っていないと言えません。これは、DEPはもちろんのこと、同志社大学として非常にもったいないことです。

#### 放映先

現在、ウェブページでの映像配信を予定しています。放映日は未定です。

#### 番組の制作と内容

DEPで毎年行っている省エネ活動を映像に収め、それを一本の映像にします。大学の省エネ活動の在り方などが主な切り口で、毎年同志社大学が行ってきた膨大なデータからそれを分かりやすく映像にまとめます。また、今年度初の試みである省エネサミットの様子も盛り込む予定です。

### 総括

2011年度のあすみチャンネルは、課題が多く残る一年になりました。目標に挙げた「テレビ放映」の未達成により、不特定多数に向けての環境啓発を試みることができませんでした。今後は目標に対する取り組み方を見直していかなくてはならないと感じました。設定から達成までの計画を明確にし、それに基づき活動することが必要不可欠です。

クローバー祭イベントでは、特定の対象ではありませんが、参加してくれた子供たちに環境問題の知識や、自然の魅力を伝えることができました。また、イベントを通して映像の新しい可能性を発見することもできました。このような成果は発信対象を考えた番組制作を行ったことから得られました。2011年度の反省をこれからの活動に活かし、より多くの方々に環境に対する意識の啓発ができるように活動していきたいです。また、目標を達成するために、もっと新たな可能性を探っていくかなければならないと感じました。



近年、世の中では、環境問題が目され、地域から日本、また、世界へと、幅広いジャンルで様々な活動が活発に行われております。私たちも何かアクションを行う際に、世の中の流れを知ることが大事です。また、時流に合わせて環境に関する薄い方々に効果的に啓発しやすくなります。



理工学部環境システム学科  
1年生 福田佑貴  
GC・3eee・省エネ所属

ここでは、今どのような環境問題が深刻で、また、どのような解決策が注目を浴びているのかを、世界や日本の動きと合わせ、何例かを紹介し、解説していきます。

### 地球サミット2012

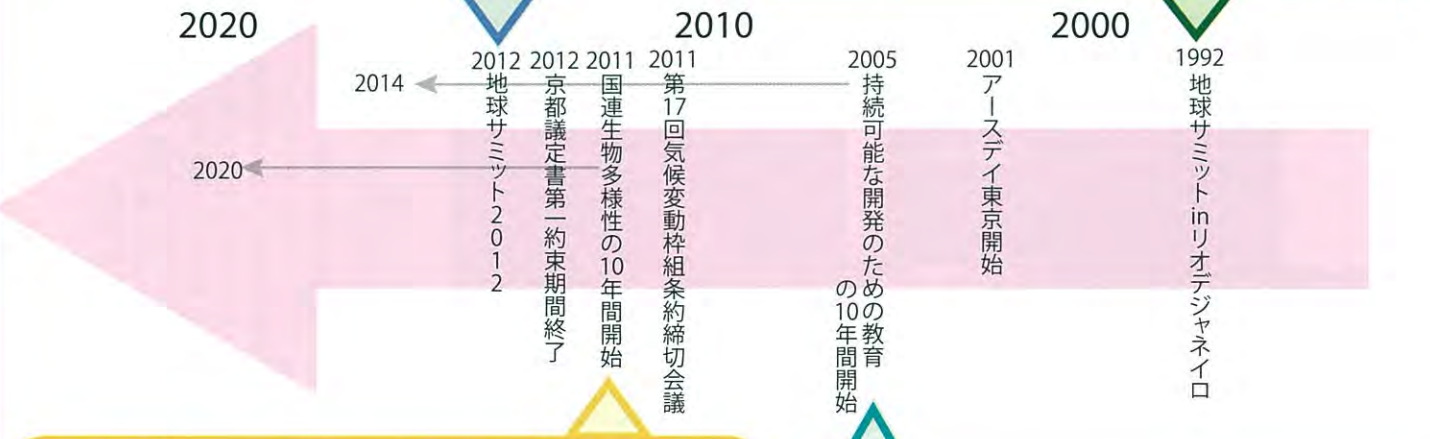
1992年の地球サミットから20年経ち、再び2012年にリオデジャネイロで地球サミットが開催されます。1992年に世界的に注目を浴びてから、気候変動、生物多様性、ESDなど様々な観点が問題が浮上り、まだまだ、持続可能な社会になつていないといえます。

この地球サミット2012でもう一度、20年間でどういった成果が残せたのか、どのような反省点があったのかをしっかりと議論され、これからの方針が決まっていこう。日本でも国内のネットワークができ、自分たち若者も含めた多様な世代の人が地球サミットに関心をもち、意見を上げられるような状態にしていこうです。



(地球サミット2012ホームページより)

地球サミットとは1992年にリオデジャネイロで国際連合が開催した、「環境と開発」に関する国際連合会議のことです。環境と開発に関する国連会議は10年ごとに開かれていて、以前にはストックホルムやナイロビで開かれていました。このリオでの会議が地球サミットとして広まった理由には、環境と開発に関するリオ宣言という、これから国々がどのようにして環境に配慮し施策を行うべきかなどの理念に基づいた宣言がなされました。これを機に、地球環境問題に向けてCOPが何回も開かれ議論が交わされているのです。



持続可能な開発のための教育の10年  
持続可能な開発とは、次世代の人たちの利益が損なわれない程度で、地球資源の有限性を意識しながら環境を破壊せずに利益を追求していくことです。ESD(持続可能な開発のための教育)とは持続可能な開発を人々に普及させるための教育を重視し、その質を向上させることを目的としています。学生が地域に特有の自然に触れ合つてその利用の歴史を学んだり、地域に根差した活動をしている企業や団体とかかわり、リサイクル品の流通を学習したり、NPOにインターンする機会を提供したりと様々な形で日本、世界中で実施されています。ESDの10年の最終年、2014年には、岡山と愛知県古屋で国際会議が開かれ、10年間の成果の報告と見直しが行われます。

国連生物多様性の10年  
2010年10月に名古屋で開催された国際会議COP10では、生物多様性の3つの定義の1つである「遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)」について、遺伝資源の豊富な発展途上国と製薬を製造する先進国との間で熱い議論が交わられました。「国連生物多様性の10年」はこのCOP10で制定されたものです。また、同時に「名古屋議定書」と「愛知ターゲット」が採択されました。生物絶滅のスピードがここ100年の間で1000倍に膨れ上がっている現状を考慮し、2010年以降の目標が定められました。2010年の内容は、短期目標として、2020年までに、生物多様性の損失を食い止めること、長期目標として、2050年までに、生物多様性を現状以上に豊かにすることです。2012年にはインドでCOP12が開かれることもあり、日本でも、愛知ターゲットの目標を達成しているかどうかを「見える化」するプロジェクトが動き出しています。(※)UNCEDを中心として、日本中の生物多様性に関する、様々な環境団体が活動しています。(※)UNCED:国際自然保護連合の日本委員会、自然保護や生物種の保護に取り組んでいる。

1 回生GC所属の吉永由美  
佳がインタビュアーとなって、  
今年度で卒業される先輩方6  
人にDEPに入ったきっかけ、  
印象に残った活動、DEPに  
入って変わったことなどをお聞  
きし、最後に後輩たちへのメッ  
セージをいただきました。

社会に目を配って

村田諒平



【氏名】 村田 諒平  
【学部】 理工学部  
環境システム学科  
【出身地】 京都府  
【活動歴】 現DEPリーダー  
2回生時にGCリーダー

DEPに入ったきっかけは？  
2008年にDEPが中心となって開  
催された世界学生環境サミットin京都  
の実行委員会をしていました。その時に

DEPの先輩方と知り合って仲良くな  
り、サミットが終わってからの、いつの間  
にDEPに入っていました。

DEPに入ってからどんな風に成長しまし  
たか？  
今までは自分の言いたいことをずばず  
ば言っていたけれど、そういう風には言  
わないような術を覚えました。あと、い  
ろんな先輩を見てきて、プロジェクトをど  
う運営していくかといったことを学ん  
できました。

これからDEPにどうなってほしいです  
か？  
あらゆる人がDEPに関われる機会が  
あって、いろんな人が活動するきっかけを  
つくりたい、活動できる場になってほしい  
です。それにいるんなら入ってもらいた  
いですね。

後輩たちにメッセージをお願いします  
自分たちの世界だけに閉じこもらず  
社会全体に目を配ってほしいです。自分  
がやりたいことを追求するの大事だけ  
で、本場に社会に必要とされることで、  
自分たちができることを追求してほしい  
です。そういうことを考えながら企画を  
考えられるようになってほしいですね。

変わることに

成長すること  
鹿取大祐

DEPに入ったきっかけは？  
一つ目は、環境に興味があったからで  
す。二つ目は、今住んでいるマンションの  
新入生歓迎会で現在3回生の栗原さんに  
出会って、DEPのことを聞きました。今  
まで高等専門学校で真面目なことをして  
いなかった分、大学では何かしようと思っ  
てDEPに入ることになりました。

後輩たちにメッセージをお願いします  
とりあえず後悔せんようにとにかく、  
全力でやってほしいです。今までの経験か  
ら、そこに全力をかければかけるだけ成  
長できるということがあります。企画  
面に対して思い入れがあればあるだけ  
やっばり頑張れるし、頑張れば頑張るほ  
ど思い入れも強くなっていく。終わった後  
にみんな「ああ終わっちゃったな」と、  
さみしいなって思えるような企画をやっ  
てほしいですね。DEPではそういう場を  
提供してくれていますからね。そういう  
ことが社会に出た時に役に立つと思いま  
す。

後輩たちにメッセージをお願いします  
全力でやってほしいです。今までの経験か  
ら、そこに全力をかければかけるだけ成  
長できるということがあります。企画  
面に対して思い入れがあればあるだけ  
やっばり頑張れるし、頑張れば頑張るほ  
ど思い入れも強くなっていく。終わった後  
にみんな「ああ終わっちゃったな」と、  
さみしいなって思えるような企画をやっ  
てほしいですね。DEPではそういう場を  
提供してくれていますからね。そういう  
ことが社会に出た時に役に立つと思いま  
す。

何も考えず

突っ走れ！  
竹村美佳里

DEPに入ったきっかけは？  
高校生の時から映像を作りたいって、な  
んかできるとこないかなあって思ってた  
らDEPの広告で「映像作れます」って書い  
てあるのを見かけました。DEPなら大  
学の団体やし、ちゃんとした活動ができ  
るかなと思ったので入りました。

DEPに入ってからどんな風に成長しまし  
たか？  
人の話をちゃんと聞くことを学びまし  
た。あと、DEPではよくミーティングを  
するけど、その時にどういう立場でもの  
を見たらいいかとか、どういう意見を  
言ったらいいかといったことが瞬時に判断  
できるようになりました。

印象に残っている活動は？  
世界学生環境サミットin京都はすご  
かった！運営委員会は泊まり込みでがっ

印象に残っている活動は？  
全部の活動が印象に残っています。で  
も、その中で、あすみチャンネルで初めて  
の企画で+Eを取材して一本の映像に仕  
上げて上映するというのがあったん  
です。人間関係とか、仕事のこなし方と  
か、何にも知らないのにぐいぐい進んで  
行って、失敗しました。小規模なのに企  
画をこなすのってこんなに大変なのか！  
と考えを改めました。初めに成功せずに  
失敗したのはいいことだったと思います。  
初めからうまくいっていたら学びはなかつ  
たはずだから。

後輩たちにメッセージをお願いします  
やっばり中途半端にやるより、ちゃん  
と終わらせてから次の企画に手を付けた  
ほうがいいですね。あと、失敗すること  
はいいこと。いっぱい失敗しているんこと  
を学べます。それと先輩とか友達に客観  
的に自分を見てもらって、それを受け入  
れられるようになるっていいですね。そう  
することで自分の使命だったり役割だつ  
たりがわかるようになるから。いろんな  
人と出会って、自分も変わります。変わ  
ること＝成長することだと思っています。



【氏名】 鹿取 大祐  
【学部】 理工学部  
エネルギー機械工学科  
【出身地】 岐阜県  
【活動歴】 現あすみチャンネルリーダー

これからDEPにどうなってほしいです  
か？  
めっちゃ大きいことをしてほしいわけ  
はないけど、ただ、一人にでもいいから何  
か影響力のあることをやってほしいです。  
そうやって環境問題に興味がある人を  
増やしてほしいです。

後輩たちにメッセージをお願いします  
失敗してもいいから最後までやりま  
しょう。みんなは先読みしすぎるから、  
何にも考えんとばーっと突っ走って。だめ  
なときは先輩とかが止めてくれます。失  
敗してやっとなんか気づくことがあるので、とり  
あえず行動してみましよう！



【氏名】 竹村 美佳里  
【学部】 同志社女子大学  
現代社会学部  
【出身地】 兵庫県  
【活動歴】 あすみチャンネル及び  
省工ネ所属

ぶつかった壁の分だけ  
大きくなれる

田畑剛志

DEPに入ったきっかけは？  
社会人になる前になにか役に立つこと  
をやっておきたかったんで2回生の時に  
入りました。

無駄のない

大学生活を  
高山俊一



【氏名】 高山 俊一  
【学部】 理工学部  
環境システム学科  
【出身地】 埼玉県  
【活動歴】 前E-phoリーダー

DEPに入ったきっかけは？  
1回生の時に他の環境サークルに所属  
していたのですが、2回生になってから違  
う場所へ新しいことがたくなり、当時  
DEPに所属していた先輩に紹介して  
いただいたので、DEPに入ることにしまし  
た。

印象に残っている活動は？  
DEPにはまだ所属していませんでした  
が、1回生の時に当日ボランティアとし  
て参加した世界学生環境サミットin京  
都です。DEPのメンバーたちが洞爺湖サ  
ミットに意見書を提出していたのを見  
て、当時1回生だった僕は、大学生は  
こんなことまでできるのか！と衝撃を受け  
ました。その時の先輩たちの姿が忘れ  
られません。



【氏名】 田畑 剛志  
【学部】 法学部法律学科  
【出身地】 京都府  
【活動歴】 3回生時にGCリーダー

印象に残っている活動は？  
Super Photo Rally N(SpZ)です。こ  
の企画の内容は、京都の観光地を留学生  
と回って観光地だけでなく、その場にあ  
る環境に関するものを探して写真を撮っ  
てきてもらうというものでした。この企  
画は自分がGCのリーダーになってから  
初めての企画で、たくさん留学生が集  
まってくれたので、メンバーが「国際とい  
うものをリアルに感じる」ことができた企  
画だったと思います。あとは2回生の秋  
に開催された第一回環境学生討論会  
です。自分は副議長と国際貢献文化会  
のファシリテーターをして、日本がこれか  
ら世界にどういうアプローチをしていく  
のかという話をしました。

これからDEPにどうなってほしいです  
か？  
環境について学生が何かを学び取れる  
いい教育機関であってほしいです。

後輩たちにメッセージをお願いします  
自分はこのなら負けないっていう何かを  
見つけてほしいです。DEPだけじゃなく  
てもいろいろ活動してみてください。ぶつ  
かった壁の分だけ大きくなれると思いま  
す。でも「こたれないように」こたれたと  
きは話してくください。

# 新メンバー募集!!

環境問題に関心のある方はもちろん、環境教育・国際交流・映像製作・政策提言・Webサイト製作に少しでも興味のある方は下記の連絡先までご連絡ください。メンバーは随時募集しているので、いつでも活動について説明をいたします。

## DEPの特徴

1. サークルではない、大学組織だからできる大規模な活動!!
2. 多学部多学科、多様なメンバー
3. 自分のスキルUPもできる!!

MAIL: dep.asumi@gmail.com  
HP: http://eco-pro.doshisha.ac.jp/



# OP会

2011年2月に、DEPのOPで構成されるOP会が発足しました! OP会とは、OBとOGをまとめた人を指します。

頼もしいOP会が存在することで、現役メンバーは設立当初の想いを引き継ぎながら、さらなる発展を目指すことができます。また、OP会はOPが社会に出て得た知識や経験を、現役メンバーが利用しやすい環境を整えていきます。

# 編集長より

## 過去と未来のDEP

DEPに入って1年目の私にとっては全てがはじめての経験でした。2011年度の年間報告書を作成するにあたって過去数年の年間報告書を読みました。過去のDEPメンバーの姿を知らない私にとってはとても新鮮で、「DEPってこんな人がいたんだ」「こんな活動していたんだ」と、私が知らないDEPの姿がそこにはありました。今後、年間報告書を開いてみたときに「自分はこんな風に思っていたんだな」「こんな先輩たちがいたんだな」と少しでも今のメンバーの声を残しておきたいと思い、DEPメンバーに「来年度への抱負と意気込み!」を考えてもらいました。2011年度DEPの報告としてこの年間報告書を残すとともに、DEPメンバーの足跡として、ふっと振りかえったときに2011年度のメンバーに会えるような年間報告書であるといいです。そして、個々の「抱負と意気込み」をもって、来年度の活動につなげてもらいたいです。

最後になりましたが、2011年度年間報告書を作成するにあたりましてご協力をいただきました環境保全・実験実習支援センターの方々、そして全てのDEPメンバーに深謝の意を表します。

高野詩織(3) 法学部  
専門分野を深め、環境人間になる!

森誠三郎(2) 理工学部  
立派な人になる、自分の中で言い訳をしない。

粉川明日香(2) 生命医科学部  
タスクをサクサクこなす

浅井保匡(4) 経済学部  
勉学をがんばる

久野真由子(1) 経済学部  
自分ができることを探す。

吉本篤規(3) 経済学部  
知識の習得。研究と実践。

村田諒平(4) 理工学部  
エコなひとり暮らしの実践と情報発信

小野可織(4) 法学部  
持続してやりとげる!!

三河千里(3) 法学部  
今年もよく笑う!

電橋直人(4) 文学部  
もっと知識と教養を身につける。

栗原和音(3) 理工学部  
自己満足に終わらない環境活動!

山本雅弘(4) 文化情報学部  
凡事を徹底する。5分前集合を徹底します。

北島明佳(1) 同女現代社会学部  
自分のやりたいことを見つける!

渡辺大樹(1) 理工学部  
頑張る。ただひたすらに。そして挑戦し続ける。妥協はしない。

山本周一(1) 法学部  
大人になる!! 積極的に生きる!! 努力する!! 動く!!

野景一郎(4) 経済学部  
どんな困難にも負けない!

杉本聖弥(1) 理工学部  
積極的な行動を

吉永由美佳(1) 理工学部  
やりたいことをいっぱいする!

後藤彩子(4) 商学部  
新しい環境に慣れ 自分を成長させること

田中 頌宇将(2) 経済学部  
勉強する!

高山俊一(4) 理工学部  
インプットしまくりです!!

編集後記

# 2011年度年間報告書

# 編集後記

杉山沙希(2) 生命医科学部  
充実した毎日が過ごせるように、1日1日を大切にしていこう(\*^^\*)♪

濱田陽平(4) 経済学部  
どのDEP同期にも負けないように頑張る!!

川島弘嗣(2) 経済学部  
今出川を盛り上げる!!

田畑剛志(4) 法学部  
後輩たちに胸を張り続けられるような社会人になる。

伊藤友里加(4) 商学部  
キラキラした目をもつ社会人になる:)

松本歩(4) 文化情報学部  
信念を曲げず、楽しく厳しく!!

杉山鈴賀(1) 商学部  
周りに惑わされずに進め

下山凌平(3) 経済学部  
自己改革&DEP改革

福田佑貴(1) 理工学部  
何事も新入生の気持ちでぶつかろ!

竹村美佳里(4) 同女現代社会学部  
吸収! 社会人1年目、たくさん吸収して地元に貢献します★

田邊愛(2) 生命医科学部  
見る、考える、行動する E-phoを大きくする

敷北寛之(M1) 生命医科学研究科  
厄年に負けない

鹿取大祐(4) 理工学部  
器をつくる、そして吸収

丸吉宏和(2) 商学部  
常に最適な判断、アドバイスができる人間になる。

本元泰穂(2) 生命医科学部  
知性を高める。